

厚生労働省「平成 28 年度 老人保健健康増進等事業」成果報告

**中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等の
実態把握ならびに実態に即した啓発ツールの開発
に関する調査研究
事業実施報告書**

平成29年3月

『民間事業者の質を高める』

一般社団法人 **全国介護事業者協議会**

巻 頭 言

厚生労働省『2025 年に向けた介護人材の確保』（平成 27 年 2 月 社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会）によれば、今後、大きく不足することが予想される介護人材の確保に向けて、「まんじゅう型」から「富士山型」へ介護人材の構造転換の必要性が明記されています。

この「富士山型」の介護人材構造においては、人材の「すそ野を拓げる」ことが重視されており、参入促進を図る多様な人材層の 1 つとして、「中高年齢者」にも大きな期待が寄せられています。

わが国においては、就労や社会活動を行う意思と能力のある中高年齢者が多数存在しており、こうした人材の介護分野への参入を促進することができれば、介護保険サービスや介護予防・日常生活支援総合事業の担い手、あるいは地域におけるボランティア活動の担い手として地域包括ケアシステムの推進に向けて大きな戦力になるものと考えられます。

当協議会においても、特に介護人材の確保が極めて困難になっている東日本大震災の被災地や大都市部の事業者を中心に、介護職や介護補助職、見守りや家事援助などの生活支援サービスの担い手として中高年齢者を積極的に採用している事例が見られます。また、中高齢の住民をエンパワーメントし、互助や総合事業の担い手として育成を進めている事例などもあり、こうした先進事例の普及に向けて各地区で研修会等を進めてまいりました。

他方、子育てが一段落した後の女性の復職支援や子育てと介護職との両立支援、若者を対象とした介護分野の PR などと比較し、中高年齢者向けの国や自治体による啓発等が比較的手薄であり、そのために「介護は専門的な知識のある人がやる仕事であり、自分たちが活動できる場はない」「腰痛のリスクなど体力的にきつい印象があり、中高年となってから始めるには不安がある」と考える方も多く見られます。

併せて、当協議会の会員からも、中高年齢者向けに社会貢献や働き方の多様性など、介護の仕事の魅力や入門的研修の存在などをアピールするツールがなく、参入を働きかける際の阻害要因となっているとの声が聞かれます。

また、中高年齢者の「介護分野での就労やボランティア活動」にテーマを絞り、業界に対するイメージや参入阻害要因、希望する介護分野での働き方、参入促進のために期待する支援策などを明らかにした調査はほとんど見られない状況です。

こうした現状を踏まえ、当協議会では、「中高年齢者の介護分野の参入に関する実態把握と実態に即した啓発ツールの開発」を目的として、厚生労働省「平成 28 年度老人保健健康増進等事業」の補助金を活用した調査研究事業を実施いたしました。

本書は、本調査研究事業において実施した全国の中高年齢層を対象とした WEB アンケート調査や実際に介護事業所やボランティア団体で働く中高年齢者を対象としたインタビュー、本調査研究事業のために組成された有識者検討委員会での議論など、本年度の調査研

究事業の内容を実施報告書として取りまとめたものです。本報告書、および本調査研究事業の成果として取りまとめた別冊の「Care Vol.2－介護の現場で必要とされるシニアの力－」（本報告書資料編 掲載）が全国の介護事業者やハローワークや福祉人材センターなどの職業紹介事業者の皆様方に活用され、中高年齢者の介護分野への参入促進に貢献するものとなっていましたら幸いです。

最後になりましたが、ご多忙の中で対談や座談会、インタビューにご協力いただきました皆様、試行事業にご協力いただいた各地域の皆様、そして本調査研究事業に対してさまざまなご助言をいただいた検討委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

「中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等の実態把握
ならびに実態に即した啓発ツールの開発に関する調査研究」検討委員会

座長 田中 栄子

（一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会 副理事長）
（有限会社ノバネットワークス 代表取締役 社長）

目 次

◇本 編.....	4
1.本調査研究事業の背景と目的 ——	4
(1) 本調査研究事業の背景	4
(2) 本調査研究事業の目的	5
2.事業実施体制 ——	6
(1) 有識者検討委員会・ワーキンググループの目的	6
(2) 有識者検討委員会・ワーキンググループメンバー	7
(3) 有識者検討委員会・ワーキンググループでの協議内容	8
3.本調査研究事業の内容 ——	9
(1) 本調査研究事業の流れ	9
(2) 介護経営者および中高年齢者インタビュー	10
(3) WEB アンケート調査	12
(4) 成果報告会の実施	13
4.本調査研究事業の成果物 ——	14
(1) 本調査研究事業の成果物	14
(2) 成果物の普及啓発	14
5.提言 ——	15
◇資料編.....	17
【資料 1】『care vol.2 一介護の現場で必要とされるシニアの力ー』冊子 ——	17
【資料 2】中高年者向け WEB アンケート調査 調査票 ——	45
【資料 3】中高年者向け WEB アンケート調査 単純集計表 ——	69
【資料 4】講演資料～中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等～ ——	93

1.本調査研究事業の背景と目的

本章においては、次章以降で本調査研究事業の詳細を述べる前段として、事業を実施した背景ならびに事業の目的について記載する。

(1) 本調査研究事業の背景

厚生労働省『2025 年に向けた介護人材の確保』（平成 27 年 2 月 社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会）によれば、今後、大きく不足することが予想される介護人材の確保に向けて、「まんじゅう型」から「富士山型」へ介護人材の構造転換の必要性が明記されている。

この「富士山型」の介護人材構造においては、人材の「すそ野を拓げる」ことが重視されており、参入促進を図る多様な人材層の 1 つとして、「中高年齢者」にも行政や介護事業者などから大きな期待が寄せられている。

わが国においては、就労や社会活動を行う意思と能力のある中高年齢者が多数存在しており、こうした人材の介護分野への参入を促進することができれば、介護保険サービスや介護予防・日常生活支援総合事業の担い手、あるいは地域におけるボランティア活動の担い手として地域包括ケアシステムの推進に向けて大きな戦力になるものと考えられる。

当協議会においても、特に介護人材の確保が極めて困難になっている東日本大震災の被災地や大都市部の事業者を中心に、介護職や介護補助職、見守りや家事援助などの生活支援サービスの担い手として中高年齢者を積極的に採用している事例が見られる。また、中高年齢の住民をエンパワーメントし、互助や総合事業の担い手として育成を進めている事例などもあり、こうした先進事例の普及に向けた研修会等を各地区で行ってきた。

他方、子育てが一段落した後の女性の復職支援や子育てと介護職との両立支援、若者を対象とした介護分野の PR などと比較し、中高年齢者向けの国や自治体による啓発等が比較的手薄であり、そのために「介護は専門的な知識のある人がやる仕事であり、自分たちが活動できる場はない」「腰痛のリスクなど体力的にきつい印象があり、中高年となってから始めるには不安がある」と考える方も多く見られる。

併せて、当協議会の会員からも、中高年齢者向けに社会貢献や働き方の多様性など、介護の仕事の魅力や入門的研修の存在などをアピールするツールがなく、参入を働きかける際の阻害要因となっているとの声が聞かれる。

また、中高年齢者の「介護分野での就労やボランティア活動」にテーマを絞り、業界に対するイメージや参入阻害要因、希望する介護分野での働き方、参入促進のために期待する支援策などを明らかにした調査は数が少ない。

（２）本調査研究事業の目的

当協議会では、こうした背景を踏まえ、「中高年齢者の介護分野の参入に関する実態把握と実態に即した啓発ツールの開発」を目的として、以下の点を中心に事業を実施した。

全国規模のアンケート調査を通じて中高年齢者の介護分野への参入に関する意向等を詳細に把握する。

実際に介護分野において中高年齢者を活用している事業者への調査を通じ、事業者として求める人材像や職域開拓の手法・視点、教育体制などを把握する。

また、介護分野で働く中高年齢者本人にもヒアリングを行い、介護分野で働く前後を比較したイメージの変化、現在のやりがい・働きがいなどについて聞き取りを行う。

上記の調査結果を踏まえ、中高年齢者を対象とした介護分野参入促進のための啓発ツールを作成する。

併せて、調査結果や成果物を活用した中高年齢者や介護事業者、福祉人材センターなどを対象とした研修会を開催する（来年度以降の事業展開含む）。

2.事業実施体制

本章では、本調査研究事業を実施するために組成した有識者検討委員会ならびにワーキンググループのメンバーリスト、および有識者検討委員会等での議論の内容について記載する。

（１）有識者検討委員会・ワーキンググループの目的

本調査研究事業では、介護労働や地域連携に精通する学識経験者、実際に中高年齢者を雇用する介護事業者などから構成される検討委員会（以下、有識者検討委員会）を組成した。有識者検討委員会の設置・検討により、調査の進め方やアンケート調査項目、好事例の選定基準、報告書の内容に対する助言などを通じて事業全体の質の向上を図った。

併せて、有識者検討委員会の下で実務レベルでの協議を行うワーキンググループを設置した。

(2) 有識者検討委員会・ワーキンググループメンバー

本調査研究事業の有識者検討委員会およびワーキンググループのメンバーは、以下のとおりである。

◆有識者検討委員会 委員メンバー

(敬称略)

氏 名	所 属
是枝 祥子	大妻女子大学 名誉教授 (座長)
田中 栄子	民介協 副理事長 (有)ノバネットワークス 代表取締役 社長
扇田 守	民介協 専務理事
牧野 史子	(特非)介護者サポートネットワークセンター アラジン 代表
石井 久恵	(公財)介護労働安定センター 業務部次長
田尻久美子	民介協 関東甲信越地区理事 (株)カラーズ 代表取締役
菅野 雅子	フォスターリンク(株) コンサルタント
田中 知宏	(株)浜銀総合研究所 主任研究員
迫田 三佳	年友企画(株) 企画編集部次長

◆ワーキンググループ メンバー

(敬称略)

氏 名	所 属
是枝 祥子	大妻女子大学 名誉教授 (座長)
田中 栄子	民介協 副理事長 (有)ノバネットワークス 代表取締役 社長
扇田 守	民介協 専務理事
田尻久美子	民介協 関東甲信越地区理事 (株)カラーズ 代表取締役
菅野 雅子	フォスターリンク(株) コンサルタント
田中 知宏	(株)浜銀総合研究所 主任研究員
加藤 善崇	(株)浜銀総合研究所 研究員
迫田 三佳	年友企画(株) 企画編集部次長

(3) 有識者検討委員会・ワーキンググループでの協議内容

本調査研究事業における有識者検討委員会およびワーキンググループの実施状況ならびに協議事項は以下のとおりである。

会議名	実施日時	協議事項
第1回有識者検討委員会兼 第1回ワーキンググループ	2016年9月8日	事業の趣旨・目的・全体像の説明 本事業における各種用語の定義等について 事業実施内容の説明 成果物の方向性について
第2回ワーキンググループ	2016年10月20日	アンケート調査の設計について アンケート実施スケジュールについて
第2回有識者検討委員会兼 第3回ワーキンググループ	2016年12月2日	WEBアンケート結果の報告 インタビュー実施状況報告 成果物の構成案について 今後のスケジュールについて
第3回有識者検討委員会兼 第4回ワーキンググループ	2017年2月15日	成果物原稿について 適職診断シートの内容について 成果報告会について

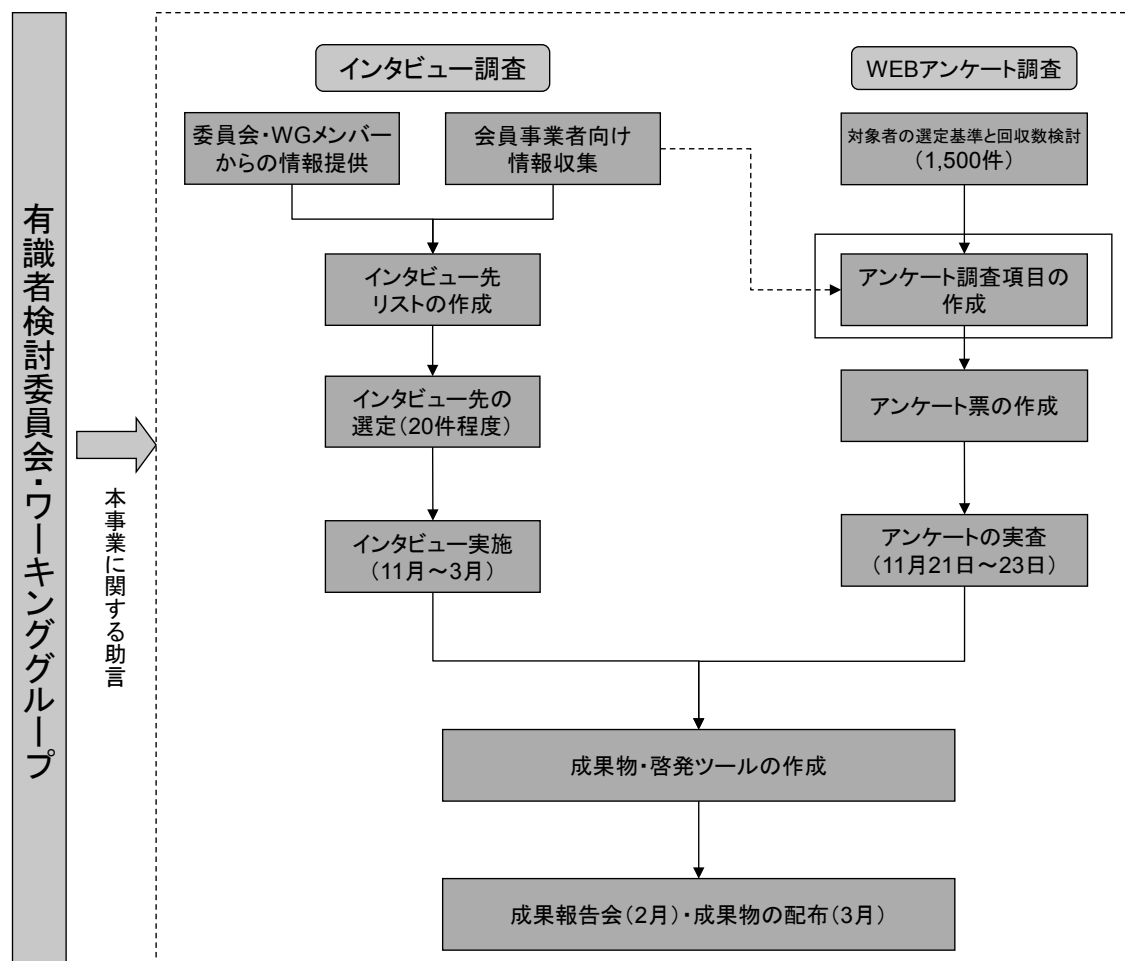
3.本調査研究事業の内容

本章では、本調査研究事業の流れと本調査研究事業で実施した当協会の会員事業者向け情報収集（FAX 回収による自由回答形式の情報収集）、インタビューおよびアンケート調査の実施概要について記載する。

（１）本調査研究事業の流れ

本調査研究事業のフローは以下のとおりである。

図表 1：本調査研究事業のフロー



（２）介護経営者および中高年齢者インタビュー

①インタビューの実施概要

本調査研究事業の成果物である中高年齢者向けの啓発ツール作成に向けた基礎情報を収集することを目的として、中高年齢者を活用している介護事業所の経営者および介護分野での就業あるいはボランティア活動を行っている中高年齢者に対してインタビューを実施した。

具体的な実施概要およびインタビュー先は、以下のとおりである。

図表 2：インタビュー実施概要

関連項目	実施内容
○調査対象	中高年齢者を活用している介護事業所の経営者介護および、事業所やボランティア団体で働く中高年齢者
○抽出方法	有識者検討委員会・ワーキンググループメンバーでの議論、当協議会の会員事業者からの情報を通じてインタビュー先を選定
○調査実施件数	介護事業所経営者 3 名、中高年齢者：12 件（座談会参加者含む）
○調査手法	半構造化面接法により実施
○調査実施時期	2016 年 11 月～2017 年 3 月

図表 3：経営者インタビューの実施先

インタビュー対象事業者・対象者	本部所在地	インタビュー実施日
○有限会社ノバネットワークス 田中 栄子 氏	岐阜県郡上市	2016 年 12 月 2 日
○株式会社カラーズ 田尻 久美子 氏	東京都大田区	2017 年 2 月 18 日
○ばんぶきん株式会社 渡邊 智仁 氏	宮城県石巻市	2017 年 3 月 7 日

図表 4：中高年齢者向けインタビューの実施先

インタビュー対象事業者	対象者の 就業・活動エリア	インタビュー実施日
有限会社ノバネットワーク 2 名	岐阜県郡上市	2016 年 11 月 15 日
有限会社菜花 1 名	愛知県名古屋市	2016 年 11 月 16 日
株式会社ソラスト 1 名	大阪府大阪市	2016 年 11 月 23 日
有限会社愛のかけはし 1 名	大阪府東大阪市	2016 年 11 月 24 日
株式会社ライフサービス 1 名	福井県小浜市	2016 年 12 月 9 日
社会福祉法人伸こう福祉会 1 名	神奈川県横浜市	2016 年 11 月 30 日
NPO 法人校舎のない学校 1 名	岐阜県大垣市	2016 年 11 月 16 日
NPO 法人介護者サポートネットワークセンター アラジン 1 名	東京都港区	2016 年 12 月 16 日
東京都大田区 多摩川芙蓉ハイツ シニアクラブ 1 名	東京都大田区	2016 年 11 月 11 日
株式会社ケアアカデミー葉っぱのフレディ 1 名 (座談会参加者)	東京都中野区	2016 年 11 月 28 日
株式会社カラーズ 1 名 (座談会参加者)	東京都大田区	2016 年 11 月 28 日

※インタビューを行った個人名は割愛した。

②インタビュー項目

本調査研究事業で実施したインタビューでは、主に以下の項目について聴き取りを行った。

■経営者向けの聴き取り項目

- ・中高年齢者の活用実態（従事している業務・活動、活用人数）と今後の活用意向
- ・中高年齢者を活用する際の課題や配慮している点
- ・中高年齢者が特に優れていると感じる点 など

■中高年齢者向け聴き取り項目

- ・介護の仕事やボランティアを行う前の経歴
- ・介護の仕事やボランティアに参入するきっかけ、動機
- ・介護の仕事やボランティアに参入する前と後でのイメージの変化 など

(3) WEB アンケート調査

①WEB アンケート調査の実施概要

インターネット調査会社のモニター登録会員を対象として、中高年齢者の介護分野参入にかかる意識（介護分野に対するイメージ、介護分野参入の阻害要因、希望する働き方など）を詳細に把握することを目的として WEB アンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施概要は、以下のとおりである。

図表 5：WEB アンケート調査実施概要

関連項目	実施内容
○調査目的	中高年齢者の介護分野参入にかかる意識（介護分野に対するイメージ、介護分野参入の阻害要因、介護分野における希望する働き方など）の把握
○調査対象	インターネット調査会社（楽天リサーチ）のモニター登録会員のうち、介護事業所での就業や継続的・定期的介護ボランティアの経験がない 55 歳～70 歳までの男女
○回収数	回収数 1,500 件となるまで調査を実施
○調査方法	WEB アンケート調査
○調査実施時期	2016 年 11 月 21 日～23 日

②アンケート調査における設問項目

本調査研究事業で実施したアンケート調査においては、主に以下の設問項目を設定し、調査を実施した（アンケート調査票については資料編を参照）。

- 個人属性（年齢、居住地、職業経験、学歴、年収）
- 今後の就業あるいはボランティア活動意向とその理由
- 介護に関する情報収集や介護事業者との接点の状況
- 介護事業所での就業やボランティア活動の意向と就業・ボランティアを行う際の不安
- 介護事業所での就業やボランティア活動を行いたくないと考える理由

③アンケート調査の集計結果

アンケート調査の集計結果については、資料編を参照されたい。

(4) 成果報告会の実施

本調査研究事業の成果の普及啓発を目的とする報告会を 2017 年 2 月 18 日に東京都千代田区で実施した。報告会では、研究会の座長である大妻女子大学の是枝祥子名誉教授に事業内容と調査結果に関するご講演をいただいた（成果報告会におけるプレゼンテーション資料は、資料編参照）。

報告会の実施概要は、以下のとおりである。

図表 6：成果報告会の実施概要

実施日	実施場所	受講者数
2017 年 2 月 18 日	エッサム神田 2 号館（東京都千代田区）	94 人

4.本調査研究事業の成果物

本章では、本調査研究事業を通じて作成した成果物と事業成果の普及啓発の方法について記載する。

(1) 本調査研究事業の成果物

①成果物作成の流れについて

本調査研究事業では、アンケート調査やインタビューの結果を踏まえ、中高年齢者に介護分野の仕事やボランティア活動に興味を持ってもらうためのツールとして、冊子「Care Vol.2 ー介護の現場で必要とされるシニアのカー」を作成した。同冊子の内容については、資料編を参照されたい。

②成果物のコンセプト

成果物の基本コンセプトは以下のとおりである。

介護の仕事や介護のボランティアの経験がない方々に、介護の職場・ボランティアの内容、資格、介護保険サービスの種類などを理解いただけるよう、わかりやすい内容とする。

また、介護業界に対して好意的なイメージを持ていただける内容・構成・デザインとする。

実際に介護の職場やボランティア活動の場で働く中高年齢者の生の声を掲載した冊子とする。

介護事業所や各地のハローワーク、福祉人材センター、シルバー人材センターなどが中高年齢者に介護の職場を紹介する際に活用可能な内容とする。

(2) 成果物の普及啓発

①全国の介護事業者等への配布

本事業を通じて作成した成果物について、全国の介護事業者、ハローワーク、シルバー人材センター、福祉人材センターなどに配布し、成果の普及・啓発を行った。

②当協議会ホームページへの掲載

成果物を当協議会のホームページにおいて公開した。

③業界紙等への情報発信

業界紙等への成果物の送付を通じ、マスメディアを活用した事業成果の発信を行った。

5.提言

本章では、本調査研究事業を通じて得られた各種情報や有識者検討委員会での議論を踏まえ、中高年齢者の介護業界での活用促進に向けた、主に介護事業者に対する提言を記載する。

①介護の仕事やボランティアに対する「正確な理解」の促進

今回実施した中高年齢者を対象とする WEB アンケート調査の結果によれば、介護業界や介護の仕事について肯定的なイメージを持っている方が約 2 割にとどまっている状況がある。

ただし、こうした業界へのイメージは、日常的な介護事業所との接点、あるいは介護に関する情報入手によって改善する傾向が見られる。

また、介護業界や介護の仕事に肯定的なイメージを持つ群とそうでない群を分け、介護の仕事への就業意向を比較すると、肯定的なイメージを持つ群のほうが介護の仕事をしたいと考えている方の割合が高いという結果も出ている（資料編 『Care Vol.2 ー介護の現場で必要とされるシニアのカー』 および是枝座長講演資料参照）。

こうした結果を踏まえ、より正確に介護の仕事を中高年齢者に知ってもらうことができれば、業界や仕事に対するイメージが変化し、介護業界での就業に前向きな方が増加する可能性があると考えられる。

そこで介護事業者においては、例えば、地域住民向けのセミナーや施設見学会、地域イベントへの参画などを通じて住民との接点づくりを積極的に進め、中高年齢者へ介護業界や介護の仕事等に関する正確な情報を伝えていくことで人材獲得につなげていく取組みが期待される。

②ターゲットを絞った効率的・効果的なアプローチの実施

今回の WEB アンケート調査を踏まえれば、中高年齢者における介護の仕事への就業意向やボランティア活動への参加意向は必ずしも高くないという結果が出ている。そのため、中高年齢者全般に対して介護業界での就業等を働きかけることは、ヒト・モノ・カネの制約があるなかで必ずしも効果的ではないと考えられる。

他方、介護業界での就業意向やボランティアの参画意向について見ると、「どちらともいえない」と回答している、介護業界での仕事やボランティアを明確に忌避しているわけではない層が一定の割合で存在している。

①のような介護業界に対する理解者を広げていく取組みと併せ、中間的な意向を有する層の抱えている不安や仕事に対するニーズなどを分析し、彼（彼女）らのニーズに即した、ターゲットを絞った働きかけを行うことで、効率的・効果的に就業に前向きな層の増加につなげていくことが考えられる。

③中高年齢者が就業・活動可能な業務の開拓

今回実施した経営者を対象とするインタビューにおいては、中高年齢者にとって介護の仕事は身体的な負担が大きく、長く続けることが難しいという印象を持たれているとの指摘が聞かれた。実際、WEB アンケート調査でも、介護の仕事をする上での不安として、体力的な問題を挙げる回答者の割合が高くなっていた。

他方、『Care Vol.2 ―介護の現場で必要とされるシニアの力―』に掲載した中高年齢者の活用に成功している事業者においては、中高年齢者が介護職だけでなく、自らの体力や働き方の希望に合わせ、デイサービスの送迎や介護補助職、法人の間接部門など多様な業務に従事している様子が見て取れた。

介護事業者においては、中高年齢者を短期的な労働力として扱うのではなく、介護業界に定着し、長く働き続けてもらえるよう、自法人の業務内容を分析し、体力面に不安を抱えるシニア人材でも活躍できる職域の開拓、業務の切り出しを行うことが重要である。

また、①とも関連するが、本調査研究事業の成果物である啓発ツールなどを活用し、介護の仕事やボランティアにおける働き方・活動内容の多様性について、事業所内外へ積極的に発信していくことが求められる。

【資料 1】

『care vol.2 一介護の現場で必要とされるシニアの力ー』

冊 子



いくつになっても自分らしさを
発揮できるフィールドがある！

Carevol.2ケア

介護の現場で
必要とされる
シニアの力



いくつになっても自分らしさを
発揮できるフィールドがある！

Carevol.2ケア

新しく始めて
みませんか？



発行：「民間事業者の質を高める」

一般社団法人 全国介護事業者協議会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3 現合ビル3F
TEL 03-5289-4381 FAX 03-5289-4382



新しく始めて みませんか？

From now on !

介護って、
実はとてもクリエイティブ。
自分らしさが 人との出会いが
長年培ってきたキャリアが
いままで生きてきた人生そのものが
そのまま投影される。
人生の先輩たちの伴走者として
自分がどこまでやれるのか？
シニア世代に甘んじるのではなく
いまを生きる一人の人間として
挑戦するのびっぴのこの仕事を
セカンドキャリアと考える、
新しく始めてみませんか？
いま...



発行：「民間事業者の質を高める」

一般社団法人 全国介護事業者協議会

〒101-4047 東京都千代田区神田2-5-3 見谷ビル3F TEL 03-5289-4381 FAX 03-5289-4382

いくつになっても自分らしさを 発揮できるフィールドがある！ Careケア

介護の現場で必要とされるシニアの力		
特集	1 介護の仕事ってこんなに素敵！	6
	思ってもみなかった、主婦50歳からのチャレンジ。 人生がこんなにも輝き、魅力的になるなんて…	
特集	2 海上保安庁のパイロットから転じて、 ヘルパーの仕事をセカンドキャリアに選んだわけ	16
	操縦かんから自転車のハンドルに変わっても 信念だけは変わらない 僕の人生がある	
	経営者に聞きました	10
	労働力が不足するこれからの時代、シニア層の活躍に期待しています！！	
	シニア1500人にアンケート	12
	介護の仕事についてどのくらい知っていますか？	
	働き方診断チャート…タイプ別の解説つき	20
	「働きたい」条件と事情に合わせてこんな職場がある	
	いまからでも遅くない資格ゲットへの道	24
	福祉のフィールドで必要な資格&取得法	
	施設？ヘルパーステーション？デイサービス？	26
	意外に知らない福祉の現場…シニアから働ける職場はこんなにある！	
特集 転職して介護の仕事をした人にインタビュー		
	ケース① エリアマネージャー 市村 都さん 61歳	28
	◎非常勤のヘルパーから正社員。そして京都地区のエリアマネージャーに	
	ケース② デイサービス職員 山田 泰史さん 67歳	30
	◎熟練の印刷工からの転身先は、思いもよらぬデイサービス職員	
	ケース③ デイサービスドライバー 川畑 三喜男さん 64歳	34
	◎第二の人生を延髄梗塞で中断。ラグー魂で渾身のリハビリ、ドライバーとして完全復帰！	
	ケース④ 人事・総務 神田 求さん 64歳	36
	◎外資系企業から人事総務のプロとしてキャリア転職。前職の経験を活かせる職場へ	
	ケース⑤ ボランティア活動 酒井田 久美子さん 74歳	38
	◎家に閉じこもっていないで、だれかのお役に立ちたい！ボランティア活動が生きがいに	
	ケース⑥ ボランティア活動 峯崎 光恵さん 64歳	40
	◎母を見送って4年余。自分の老後を考え、ボランティアをしながら、楽しんで暮らす毎日	
	ケース⑦ シニアクラブ立ち上げ 竹本 晃さん 73歳	42
	◎地域を自分の住みやすい場所に！400世帯居住のマンションでシニアクラブを立ち上げる	
Talk&Talk		
	自分より少し先を行く方々と仕事で接することで 来し方行く末がわかる。老いることを自ら見つめるよい機会にも。	44
	シニアになってからの就活。不安にお答えするQ&A	48

介護の仕事ってこんなに素敵 毎日毎日、人が相手の仕事だから 気も使うが、楽しいし刺激的！

思ってもみなかった、主婦50歳からのチャレンジ。
人生がこんなにも輝き、魅力的になるなんて…

仕事を辞めて
ぶらぶらしているとき
ヘルパーという
仕事に出会う

埼玉県市八潮市にある訪問介護事業所「アネストリークス」の藤田則子さん（65歳）はヘルパー歴17年のベテラン介護職員だ。90代の終わりこそ、仕事を辞めようと思っていたとき、たまたま近所に両親を囲みに行きたが、田中栄子社長の誘いで「ヘルパー」職に就いてみることに決めたのが、こ



うヘルパーを採るリタイア役もある。いまでは仕事にそれを譲り、ヘルパーとして、利用者さんの家をまわり、若いスタッフの相談に乗ったり、アドバイスをしたりする。

お姑さんを亡くして
心にぽっかり穴が空く
そのとき勧められた
仕事にすっかりハマる

一方、佐藤恵代子さん（64歳）は、ヘルパー歴11年。子育てがひと段落を、ご主人の職業の介護をしてきた。長年お世話してお姑さんになくなって、心にぽっかり穴が空いてしまった。それ

の世界に入ってきたことが、

「それからはもうヘルパーの立ち上げのときで、以来ずっとここ

で働いています（笑）」

その間、介護福祉士の資格を取ってさらに介護職員二種とい

Interviewee

ヘルパーアネストリークス ヘルパー

佐藤恵代子さん 64歳



ヘルパーアネストリークス ヘルパー

藤田則子さん 65歳

Interviewee

を遅められず、様々なとした毎日を送っていたある日、縁あって田中社長と出会う。仕事に対する社長の考え方にすっかり共感して、ヘルパーの仕事始めることに。

「ヘルパーの資格は、家で介護するのに役立つ知識が得られると思うので、先に取ったのですが、まさか自分がヘルパーの仕事をするなんて思ってもみませんでした。新人とし

て入り、先輩の藤田さんから教えてもらいながら、一人前のヘルパーに成長した。人生の大きな転機が相手なの、いろいろあったが、それをつひとつクリアするにつれて、どんどん仕事にハマっていった。非常勤としての働き方を求めているが、介護福祉士の資格も取得。訪問回数を増やして働いたころもあるが、今はだいぶ減らして、働き方にゆとりを確保している。



お出でして、まず今日の訪問先の資料を見る佐藤さん。



おのミミーティング。利用者さんに関する申し送りや注意事項をチームで確認し合う。

チームで利用者さんを支えてい

あ、りの仕事に出会わなか
らなうしにござろう、と佐藤



「ああ来てくれたんか」って、



「仕事を楽しんで、私がだんだん生き生きしてくると、家族も協力的になっていきました。健康管理や々方にも気をつけ、細く長くこれからも仕事を続けていきたいですね」（佐藤さん）。

田中栄子さん



「味のある仕事」が、
ききこえてきます。会社として、
いついつた方たちにその「味」を
どうやって出してあげようか、期待
してゐるんです。



経営者に 聞きました

Q1 シニアの方々は、 介護の現場でどんな仕事を しているのでしょうか？

さまざまな領域で
活躍されています。
たとえばこんな職場です。

―ホームヘルパーで60歳を超えて活躍している方が、多数在籍しています。比較的生涯のヘルパーが現場を支えているケースが多いですね。彼女（彼）らがいないれば、サビヒスが成り立たなくなるとです。
―60歳を超えてから介護の仕事を始めた方もいますが、もう少し

若い年齢から働き始め、そのまま継続して働いてもらっている方が比較的多いですね。
―通所介護事業所の送迎ドライバーやレクリエーション活動の補助、地域で開催する介護予防教室のスタッフとして、働いていただいています。なかには70歳代の方も「元気でやる気があれば、いつまでも働いてもらいたいと考えています」。
―在宅高齢者の生活を支える生活支援ボランティアとして、シニア人材の方が多数在籍しています。自分や家族に介護が必要になったときの備えとして、介護技術や社会保障制度などについていろいろ学べることが、モチベーションにつながっているのではないのでしょうか？

シニア人材が 介護の仕事に フィットする理由 は何でしょうか？

―利用者の方と年齢が近く、しかも社会人としての基本的なマナーやコミュニケーションスキルを身につけている方が多いため、介護職としての立ち上がりやすいように思います。長く専業主婦だった人の場合、家事スキルが高いのも特長です。家事援助のヘルパーとしての活躍が期待されます。
―現役時代の職業生活身につけた簿記や人事、マシナリのスキルなどを活かして、介護職が苦手を強みポイントとしてみなければ、介護の専門職が、より専門性の

必要なケアに注力できるよ、要介護度が軽度の方への支援の担手や介護補助職として働いてもらいたいと考えています。
―年齢の近い方が地域のコミュニケーションや介護予防教室にいらして、高齢者の方もそこに参加しやすくなります。事業所内だけでなく、地域活動の場などでも、ぜひ活躍してもらいたいですね。
―仕事が一段落して、社会貢献をしたいという高い意識をもつ方が多いので、志がしっかりした方が多いと感じています。

Q3 雇用にあたって、留意している点を教えてください。

―採用時に年齢制限を設けず、人柄重視で採用しています。
シニアの方たちにも、役職登用や研修の機会を公平に提供しています。
―長く働き続けてもらいたいので、夜勤や急患対応など、体力面で負担の大きい業務・活動を減らし、比較的負担の少ない活動のフィールドを、さまざまに用意しています。
―歳を重ねてから新しいことを覚えるのは大変です。
若手職員と比較すると、業務内容などを覚えるのに時間がかかるため、長い目で見たOJTを行うよう、指導にあたる職員には伝えています。
―介護業務経験の方や体力に自信のある方もいらっしゃるため、身体に負担のかからない介護技術や認知症の方への対応などについて、随時しっかりと研修をするよ

うにしています。
―介護の仕事はチームワークが重要です。以前の職場でも、接する機会が少なかった方には特に力を入れて、チームワークの重要性を説明し、指導しています。
―これまでの役職や社会的地位、プライドを一度忘れ、初心にもどって学んでもらうことが大切です。

資格を取って
働くだけでなく、
介護の世界も違う働き方が
生まれてきています。
そういったジャンルに
フィットしていくのでは
ないでしょうか。

利用者さんと年齢が近く、社会経験も豊富、
コミュニケーションスキルも高いので、
信頼関係が築きやすいことが、魅力です。

Q4

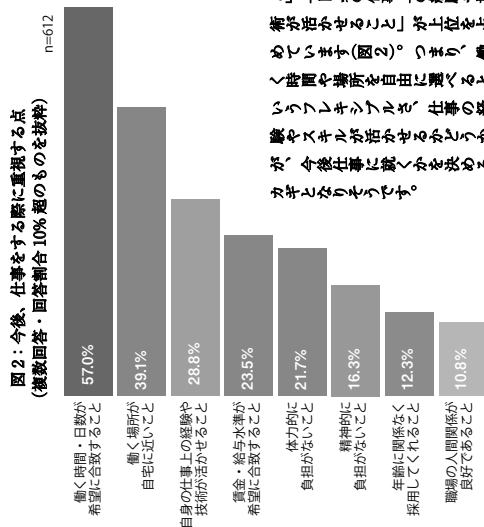
今後は、シニア人材の活躍の場は、
どう広がっていくと考えますか？

―シニア人材をいかに積極的に活用していきたいです。現在、在籍しているシニアの方々は、年齢は、なるべく長く働き続けてもらいたいと思っています。
―自分の体調や体力と相談しながら無理がないよう、自分のペースで働いてもらいたいですね。
―第一線の介護職としては、体力面や技術面で不足がありますが、これからスタートする介護事業のスタッフとして活躍していただくのではないかと考えています。

シニア1500人に アンケート。 介護の仕事に ついてどのくらい 知っていますか??

この本を作成するにあたり、
1500人の中高年齢層(55歳~70歳)の
人たちに、今後の働き方やボランティア活動参加への意向、
介護の仕事への興味・関心などについて、
インターネット上で以下のような
アンケート調査を実施しました。
果たして中高年齢層の人たちの介護分野への参入が
期待できるでしょうか？結果を踏まえ、考えてみました。

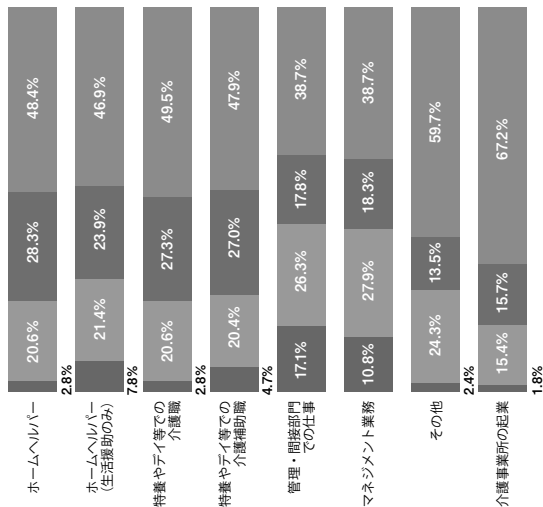
「仕事をしたい」「やや仕事を
したい」と考えた人に、その理由
を尋ねると、「生活費を得るた
め」や「健康維持のため」と答
える人が最も多く、「自分の
小遣いのため」「将来の生活費



労働条件や就業場所が折り合い、
自身のスキルや
経験が活かせるかがカギに…

金のため」「余暇の時間を有効
に使いたいため」が続きます。
仕事をする際に重視すること
は、「働く時間・日数が希望に
合致すること」がいちばん多く、
次に「働く場所が自宅に近いこ
と」「自身の仕事上の経験や技
術を活かせること」が上位を占
めていきます(図2)。つまり、働
く時間や場所を自由に選べるこ
というフレキシブルで、仕事の維
験やスキルを活かせるかどうか
が、今後の仕事に就くうえで必要
か否となりそうです。

図3：介護の仕事への就業意向(それぞれ単数回答)



介護の仕事への関心はどうか？

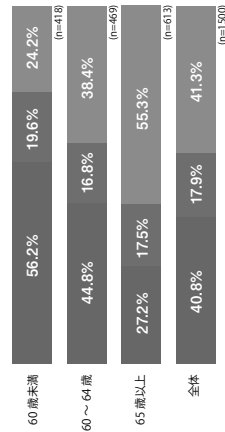
■ 仕事をしたい・やや仕事をしたい ■ どちらともいえない ■ あまり仕事をしたくない

調査対象	現住は介護事業所または介護施設に就いている人、および介護事業所や介護施設に 求職中の人、または介護施設に就いていないが、介護施設に就きたいと考えている人
調査対象 の人数	1,500人
調査期間	2019年10月1日～10月31日
調査方法	インターネット調査(無作為抽出) ※「介護施設に就きたい」と回答した人の割合は、 調査対象者の割合に比例して変動する

中高年齢で仕事をしたいと
考えている人は意外と多い

「仕事をしたい」「やや仕事
をしたい」と考えた人は全
体の約4割(図1)。年齢別
に見てみると、60歳未満の
人は6割近くが働きたい意
欲をもち、60~64歳では4
割強にのびります。しかし
65歳以上では、3割を下回
ります。つまりシニア層で
は、若い年代ほど、働く意
欲が強いことがわかります。
「どちらともいえない」と答
えた人は流動的であると思
えると、条件によっては働
いてほしいと考えている
可能性も見逃せません。

図1：今後の就業意向(単数回答)



■ 仕事をしたい・やや仕事をしたい ■ どちらともいえない ■ あまり仕事をしたくない

るほど、介護の仕事に就きた
い、希望別に尋ねたところ、
「仕事をしたい」「やや仕事を
したい」という人の合計は、残念
ながらあまり高い数字は出ませ
なでした。
それに対し、生活援助のみの
ホームヘルパーや、管理・間接

部門での仕事、マネジメント業
務などは、他に比べてやや高
なっています(図3)。関心を少
しでも示している職種につい
ては「どちらともいえない」層は、
強くアピールしていくことで、
仕事への興味につながる可能性
が考えられます。

ボランティア志向は 結構高い

ボランティア活動については、4人に1人が、何らかの関わりをもちだして回答しました（図4）。分析としては、「自然環境や環境保全活動」「地域イベント（夏祭りなど）の運営支援」が大半を占めています。なかに

は高齢者に関する活動をする人も結構存在しました。このことから地域に貢献したり、社会に貢献したりする意識を醸成している人が一定数存在することがわかります。

図4：今後のボランティア活動意向（単数回答）

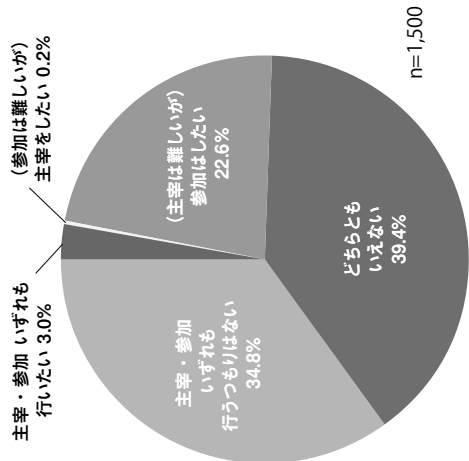
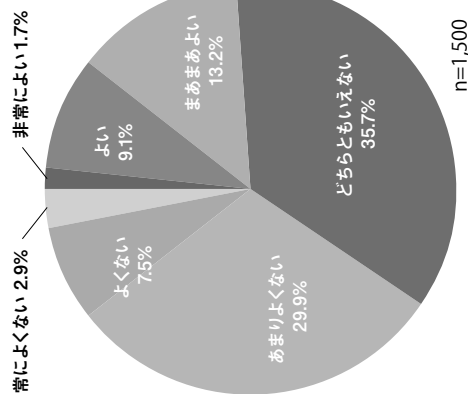


図6：介護業界や介護の仕事に対するイメージ（単数回答）



介護の仕事は、（特に訪問介護の場）働く時間や場所が自由に選べ、また年齢に関係なく正規職員として雇用される機会も多いです。介護業界や介護の仕事に対する総合的なイメージを尋ねたところ、全体の24%がよいイメージをもっていました（図6）。あとはどちらともいえない「まあまあよい」が29.9%を占め、

この層に好感をもってもらえれば、6割近くが「よい」となる可能性を秘めています。図7にあるように、介護事業所との接点をもつ機会が増えれば、仕事へのイメージはもっとよくなるでしょう。介護の仕事とより多くの接点をもつていただけたら、本書を活用していただければ幸いです。

ボランティアなら介護関連の 仕事にも興味を示す傾向が

介護系のボランティアなら、やってみようと思える人が前もって存在しています（図5）。また、地域の交流会等にも関心

を示していますので、ボランティア活動や、介護の仕事を知るきっかけとしてもらうことが大事ではないでしょうか。

図5：介護関連のボランティアへの参画意向（それぞれ単数回答）

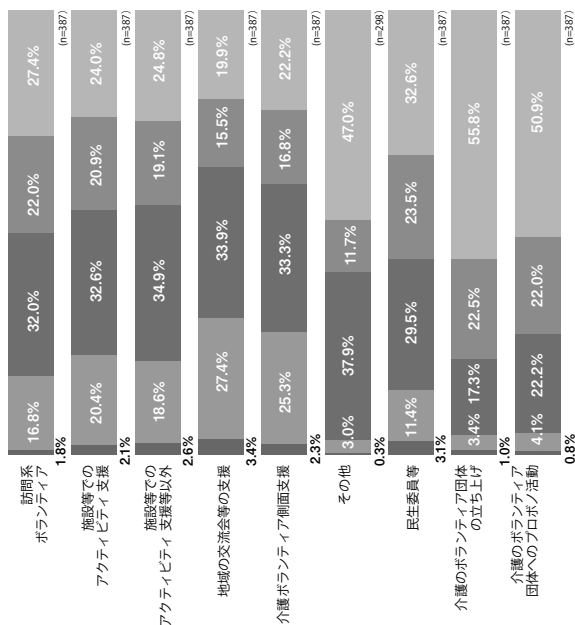
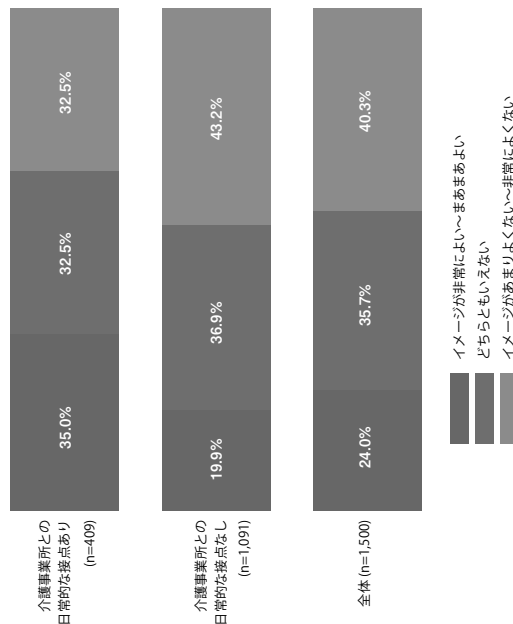


図7：介護事業所との日常的な接点と介護に対するイメージ



介護の仕事のイメージアップには、 まず接点づくりから

海上保安庁のパイロットから 転じて、ヘルパーの仕事を セカンドキャリアに選んだわけ

操縦かんから
自転車のハンドルに変わっても
信念だけは変わらない
僕の人生がある

「鬼のゴリ勝」と呼ばれた
海上保安庁時代

高校を出て海上保安庁に入り
ました。航空機のパイロットに
なれたかったんです。自衛隊で
2年間訓練して、現場にも入り
は鳥浜航空基地に赴任しました。
それから大坂の八尾 羽田を経
て鳥浜航空基地へ。その後、順
次保安部の現役船長やの次席
操縦士としてベリコクターを操
縦していました。10年間パイ

ロットを務め、本庁で事務方の
仕事を務めた後、海上保安学校
の教官を6年間やりました。

ゴリ勝と呼ばれ、当時は「鬼」
教官と（笑）。「進退」って威風
凛々がありますが、あの進退になり
たい人間を嫌うってんです。
その後、管区本部の運用司令

室の管理官として配属されまし
た。全国には管区あるなかの第
4管区本部、名古屋を最初に全
国いろいろなところに転勤し、
最後は運用司令センターの所長
さんまで。海上保安庁を満ち、
引退しました。



介護の世界への転身
女房には反対されたけど
結構自分に合っている

引退後は、小型船舶操縦
士に年間動きました。船の操縦
と違って、自動車の車検にあた
ることを覚悟してのことです。

そこを助め終わるころから、
自分には、もっとやりたいこと
があるはずだと思い始めるよう
になりました。僕は生涯現役を
貫きたいので、何かすること

助けるような、役に立つ仕事は
ないものかと。それで介護の資
格を取ろうと思ったんです。女
房に相談すると、「やめなさい、
知らないから」と反対され
ました。一勝敗めんですが、
ちょっと蓄めるタイミングで、
シルバー人材センターの現任者
研修の募集があり、無条件した
ので、すぐに応募しました。

研修が始まると、スィスイ学
んだことが頭に入ってくるん
です。自分にこれは合っているん
じゃないかって思いました。人
を助ける、尽くすという意味で
は、いままでやってきた仕事と
通じるものがあるのかもしれない
です。



interviewee

介護サービスセンター長の矢野 勝 68歳



障がいのある人への
支援に目覚める

不思議なんです、今まで身内にも介護の必要の人がおらず、介護は遠い世界の出来事でした。でも、研修を受けてみると、どれもが、非常に自分にも役に立つ。

受療当初は、認知症の方の支援に携わろうと考えていたのですが、修するところになると、障がいのある方の支援をしたいと思うようになりまして。

今は、発達障害のある方の支援
を行う一方で、ガイドヘルパー（障
がいのある人の移動支援）の仕事
もしています。

「葉の花」に出会ったのは、シルバー人材センターの就職フェアに参加したのがきっかけ。家から近かったのと、職員の方の雰囲気がとてもよかったので、決めました。介護の仕事始めて1年も経

たないところから、同じ法人が運営しているカラオケサロンの店長も生かれています。



夢は3年後、介護福祉士の資格を取得すること

究極の幸せって何だろう？ と
考えると、物や金じゃない。ひと
つは人から愛されること、そして
人から褒められること、それ
から、人の役に立つこと、最
後に、人から必要とされるこ

ਮਲਕ ਮਲਕ ਤੇ ਖਾਨਾ

介護の仕事始めてから、自分は結構変わったと思います。まず人に対してやさしくなりました。

まちを歩いていても、電車のホームとエスカターの位置関係とか車いすの人がすつと入れる建物とか、そういうところが気になるようになりました。トイレも気にかかりますし、ちょっとした段差

お城のてしと。

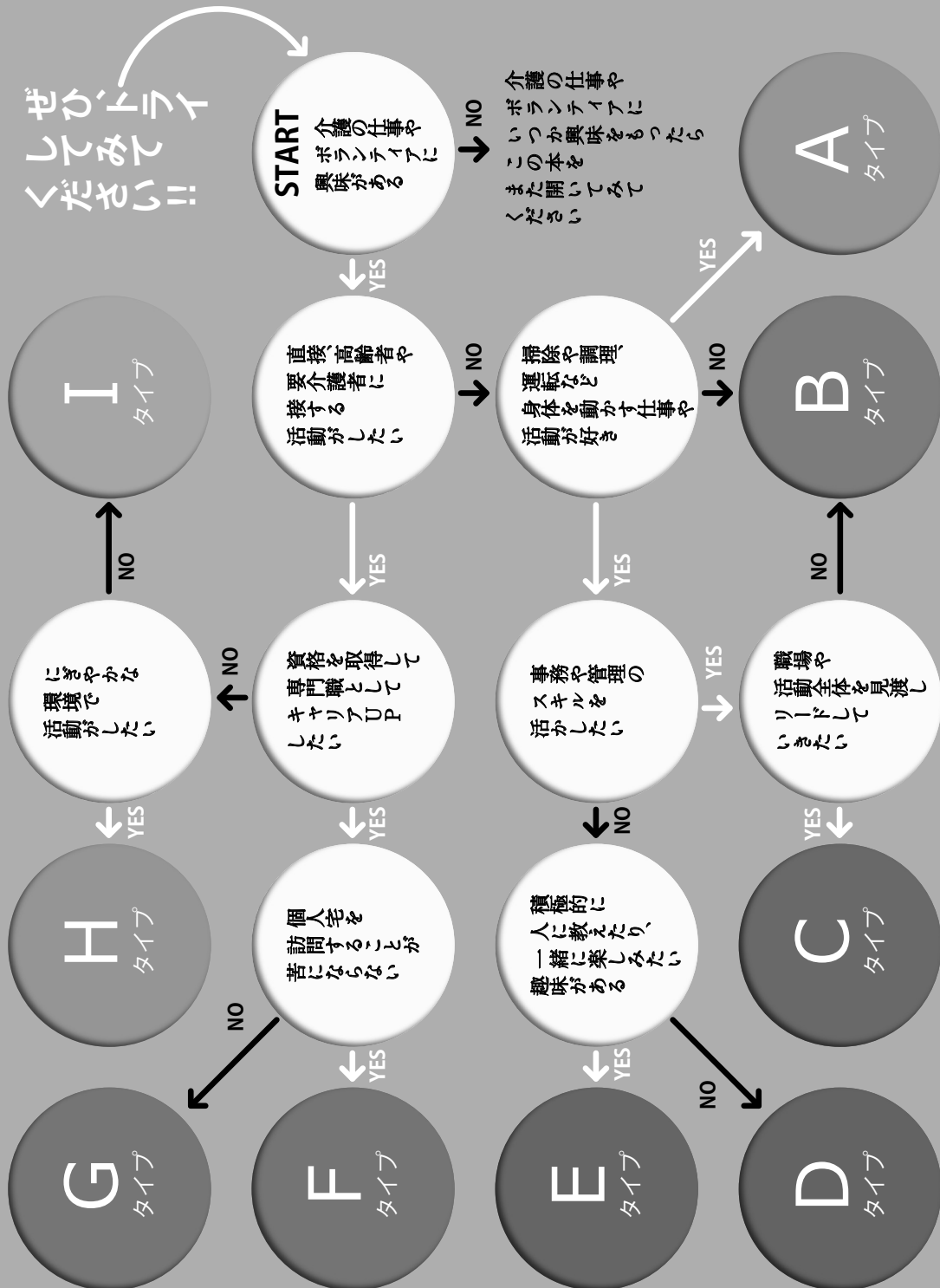
今般は「世界は一生懸命ける仕事だから、能力があります。リタイア後の男性がもっと増えたいいな」と話しています。そして、自身は、突然結婚する事が出来たら小僧を主人に取りたいと云う。そのことばかりに情になります。優り少し若い同僚がいるので、お互い胸をよけて話します。

教育時代、矢野さんはゴリ勝さんと呼ばれて親しまれ、その厳しさは「鬼」と言われるほどだった。懐かしい、矢野さんのバリバリ現役時代の写真だ。



「働きたい」 条件と事情に 合わせてこんな職場がある

介護業界にはさまざまな種類の仕事やボランティア活動の場があります。
活躍のフィールドが広くて、幅が深い…
どのような仕事や活動があなたに向いているのか？
介護の仕事やボランティアに専らして向いているのか？
それを知るためのチャートをつくってみました。



タイプ別の解説は、次のページです。

タイプ別の解説

まだボランティア団体においても、事務スキルをもつ人のニーズは高まっています。イベント

介護事業所のマネジメントに関しては、いくつかの業界特有の留意点があります。介護事業

「環境として、さまざまな趣味活動やレクリエー
ションが行われています（一般に「アクティビ

「**他人の家を随分することに躊躇するといへる**
いらっしやるでしようが、主宰のボランテニア団
体や介護業者によっては、最初は友人・知人の
お手伝いや、複數人で随分するといった両方方
からスタートする場合もあります。

いまからでも遅くない資格ゲットへの道

介護の職場にはさまざまな働き方が用意されています。

資格が必要ない仕事もありますか、もっと専門性の高い業務に従事したい、

キャリアアップをしたい、と思う人には、資格が必要になります。介護業界で働くために必要な

10の資格（養成講座も含む）をここに紹介しましょう。

1 ケルパー

介護職員初任者研修

介護業務を行う上で必要な基礎的な知識・技術を身につけることを目的とした研修です。介護の基本的な考え方を100時間の研修を通じて、コミュニケーション、認知症などに関する研修を履修し、修了時の筆記試験に合格すると「ケルパー」となりことができます。

実務者研修

初任者研修と比較すると、より実務的で専門的な介護に関する知識や技術を学ぶための研修です。これは介護福祉士に比べ、この研修の修了が、いわゆる「実務経験ルート」となり、介護福祉士（養成）の国家試験を受ける際の必須条件です。介護の仕事をしながら100時間の研修教育をスターティングすることになります。

ガイドケルパー（移動介護支援事業）

障害のある方の移動を支えるための業務で、前記の介護職員初任者研修などとは異なり、専門の研修を受講し、指導員の方を対象とした「巨大介護支援事業養成研修」を全身体験者のあ

る方が障害のある方を1年間支援するガイドケルパー養成研修、知的障害や精神障害のある方の移動介助に必要な知識・技能を学ぶ行動支援技術養成研修の2種類があり、市町村や指定介護支援センターで研修を受講できます。いずれの研修も毎時間の研修（3日研修）で修了し、同じ研修と行動支援は介護資格や業務経験がなくても受講できます。

介護士ケルパー

介護が必要な方を認知症をもつ方の受け手とする介護士系の専門業です。2016年6月よりケルパー協会が独自に実施する1級からの修了は、介護福祉士に相当するレベルの研修とされています。3級は養成など見込がないため、支援員に相当するレベル。仕事として「習得をきつ」前記の介護福祉士に相当するレベル（認定ケルパー1級〜3級）は、修了が認められます。

2 介護福祉士

介護福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づき国家試験で、介護が必要な方の生活

や生活動作を支える役割を担うことを主とする介護の専門資格です。この資格を保有する人が「介護福祉士」とも呼ばれることが多くあります。介護のフィールドは広く、在宅、施設を問わずさまざまな介護事業所で働くことができます。一定の実務経験と実務者研修を終了するが、養成施設を受講するなどの受験資格を得たうえで、毎年1月に実施される筆記試験の日に受験される。合格後、受験資格を5年間の有効期間が定められています。

3 ケアマネジャー（介護支援専門員）

介護が必要な方の相談に応じて、ケアマネジャーとして受けられる専門職です。ケアマネジャーはケアがスタートした後、介護事業所や医療機関との連携、ケアの進捗を、ケアマネジャーがサポートし、介護福祉士としての責任を担います。医療、医療、福祉の実務経験を有し、「介護支援専門員養成施設受検試験」に合格後、実務研修を終了。各都道府県の介護支援専門員養成施設を経て、介護支援専門員証の交付を受けることが必要です。

※一定の実務経験がある方などは、実務経験を免除されます。

4 社会福祉士

社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づき定められる国家資格で、一般的に「ソーシャルワーカー」と呼ばれます。介護事業所や行政、福祉などに勤務して、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者など、さまざまな支援を受ける方々に対し、専門的な知識と技術に基づき相談援助を行います。社会福祉士国家試験に合格する必要がありますが、受験資格を得るためには福祉系大学等で指定科目を履修するなど、12の資格取得ルートがあります。

5 精神保健福祉士

精神保健福祉士は「社会福祉士及びソーシャルワーカーの国家資格（精神保健福祉士法）」です。「精神保健ソーシャルワーカー（以下）」と呼ばれ、主に統合失調症やうつ病など、精神障害者の方を対象として、他の専門職と連携しながら、利用者の方の社会復帰や社会参加の支援を行います。厚生労働省や医療機関に比べ、福祉行政や司法機関などでも活躍しています。社会福祉士と同様、指定科目の指定科目の履修を経て、精神保健福祉士国家試験に合格することが資格取得の条件となります。

6 看護師・准看護師

看護師は、医師の指示のもと、患者の療養上の世話をしたり、療養の補助を行う医療専門職です。患者さんには身近に接し、心と身体両面を支える「医療現場」には不可欠の職種です。また近年は、健康増進を志す方から在宅での生活を継続

する方が在宅での受け取りを希望される方が増え、訪問看護のニーズも急激に増え、介護のフィールドは医療機関だけでなく、地域にも広がっています。

看護職になるためには、看護学校卒業し、国家試験に合格する必要があります。看護職については、看護学校卒業後に都道府県知事や実務官の指導下で研修に合格しなければなりません。

7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

リハビリテーション専門職の国家資格の職種があります。

理学療法士（PT）は、ケガや病などによって身体に障害のある方などの「座り、立つ、歩く」といった基本動作の回復や維持を目的とした運動療法や物理療法などを提供する職種です。作業療法士（OT）は、食事や入浴など日常生活を行う上で必要な機能の回復をサポートします。言語聴覚士（ST）は、生まれつき、あるいは病気や事故などによって言語に障害がある方に訓練・指導を行い、社会復帰を支援します。各職種とも国家試験による養成校を卒業し、国家試験に合格することが必要となります。

8 福祉用具専門相談員

福祉用具専門相談員は、介護施設の指定を受けた福祉用具貸与・販売事業所に在籍する職員が業務を行っている福祉用具の専門職です。

福祉用具の選定相談への対応、福祉用具サポート計画の作成、各種用具の調整、モニタリングなどの業務に従事します。

福祉用具専門相談員として従事するためには、都道府県知事の指定を受けた介護事業者が実施する「福祉用具専門相談員養成講座」を受講し、50時間のカリキュラムを修了する必要があります。

9 福祉住環境

コアテナンター

福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障害者に対し、自立した生活や生活環境を提案するアドバイザーです。医療、福祉、建築などの幅広い知識を身につけ、他の専門職と連携しながら住宅改修を行う際の助言を行います。厚生労働省が主催する一級から三級までの認定試験に合格することで資格取得できます。試験の際に、医療福祉の実務経験は必須です。

10 認知症サポーター

自治体や事業者、ボランティアが認知症となつて支援する「認知症サポーター養成講座」を受講し、修了した人です。地域住民や小中学生、介護施設や小売店の従業員など、現在、全国に約850万人（平成28年12月末現在）の認知症サポーターがいます。認知症を正しく理解し、まわりの認知症をもつ方が困っているのを助けた際には褒められるという、様々な賞状や褒状の贈り手として、役割が期待されています。

※キャリアパス、メイトとは、認知症サポーター養成講座を開催し、講師役を兼ねる。全国でキャリアパス、メイト養成講座を開催する「キャリアパス、メイト養成講座」を受け、修了したうえで、登録された人です。

* 各資格の受験条件詳細については、試験実施団体や自治体、専門職団体へお問い合わせください。

施設？ ヘルパーステーション？

デイサービス？

意外に知らない福祉の現場・・・ シニアから働ける職場はこんなにある！

介護の仕事、というと皆さんは何を思い浮かべますか？
ヘルパーさん？ 施設の職員？ ケアマネさん？
ざっくりとそんな印象しかないのでは？？
実は介護の業界の仕事はもっともっと、いろいろあるんです。
ボランティアも含めると、働ける職場の選択肢が広くて、実は懐の深い仕事なんです！



ボランティア活動も いろいろある 好きなジャンルで 自由に行えるのが魅力に

高齢の方のなかには、介護保険サービスをまだ受けていないが、そろそろ生活に不便を感じている。一人暮らしでゴミ出しがまづい、老犬飼なので、掃除が行き届かない。足腰が弱って、2階に上がれなくなり、不自由しているなど、毎日の生活に困っている人が意外と多くいらつします。

このように、制度では支援を受けられない方々に対して、ボランティア活動団体や自治会などが、さまざまなサービスを提供しています。ボランティアによる家事援助や見守り・安全確認、地域の公民館などを活用した茶話会やカラオケ大会など、交流イベントの開催など、内容は多岐にわたります。

また、地域での活動だけでなく、介護事業所内でのボランティア活動（事業所内での日中活動の支援、傾聴ボランティアなど）もあります。

今後、このような活動の必要性はますます高まるものと考えられ、担い手の確保も重要になっていきます。介護や高齢者の支援に興味はあるものの、介護事業所で働くことは躊躇してしまうという場合、まずは地域活動やボランティア活動に参加してみればいかがでしょうか。その中で、介護を理解し、またご自身の健康づくりや地域での新たな友人づくりにもつながっていきます。

なお、介護ボランティアについては、家事援助や交流イベントなどで高齢者と一緒に接する活動のほか、ボランティア団体の運営を支える事務スタッフや※一口水などの活躍の領域があります。

※財務・法律、マーケティングやITなどの専門家が専門知識とスキルを活かして、非営利団体などの支援を行うボランティア活動のこと。

シニアでも 介護保険サービスの 種類に応じて 働ける職場は 用意されている

左の表は、介護保険サービスのもっとも運営されている事業所の種類と仕事内容です。
働く場所は結構たくさん用意されています。

いずれの職場でも、働く際には資格等が必要となりますが、年齢に関して制限はありません。むしろ、介護経験者は、シニア層のチャレンジを大歓迎していますので、チャンスはいっぱいあります。

これ以外にも、管理・接客部門で働く事務職の仕事や厨房スタッフ、送迎スタッフの仕事など、資格を必要としないさまざまな職種のニーズがあります。

介護の専門職として働きたいのか、それ以外の職種として働きたいのかによっても、選択肢は変わってきます。

どんな仕事？	職場の名称（例）	仕事の内容
介護サービスの利用にかかわる相談、ケアプランの作成	居宅介護支援事業所	介護に関する相談を受けたり、実際に介護サービスを利用する際の計画（ケアプラン）を作成します。
利用者の自宅にやって働く	訪問介護事業所／訪問入浴／訪問看護／訪問リハビリテーション	介護職や看護職、リハビリテーションなどの専門職が、利用者の自宅を訪問し、身体介護や家事援助、医療ケア、リハビリテーションなどを行います。
事業所内に行って働く	通所介護（デイサービス） 通所リハビリテーション 認知症対応型通所介護	利用者が通い、何らかの事業所に通い、運動やリクリエーションをしたり、リハビリテーションを受ける際にケアやリハビリを提供します。入浴や食事などの介助も行います。
施設などに行き行って働く	特別養護老人ホーム／介護老人保健施設（老健）／ショートステイ／有料老人ホーム／グループホーム	介護施設に入所して、介護が必要な方に、適切なリハビリテーションや生活支援、身体介護などを行います。また、介護をする家族などの不在時に介護施設で一時的に宿泊し、介護サービスが受けられるショートステイでの生活支援や身体介護も行います。
施設や利用者の自宅に行き行って働く	小規模多機能型居宅介護	通い・泊まり、訪問を利用者の都合に合わせて提供する介護サービスなので、職員もそれに合わせて、利用者を訪問したり、デイサービスで働いたり、夜勤をしたり、とフレキシブルに働きます。
福祉用品販売店で働く	福祉用品貸与 特定福祉用品販売	利用者が自立した生活を送るために必要な杖や車いす、手すりやスロープなどの福祉用品を購入またはレンタルする際のサポートを行います。 用具選定時のアドバイスや用具の調整なども行います。

※厚生労働省ホームページ等より関係部に改定・作成

熟練の印刷工からの転身先は、 思いもよらぬデザイナー職員

— まさかのリストラから警備員…そしてデザイナーの人気者に！ —

同郷の社長からの
依頼で年に1回
三線のコンサートに
開いていたのがきっかけ

山田さんと社長の妻さんは徳
島県田原市、田原の母。妻さん
は、デザインを学んだ東京の池田
新田の印刷屋にすでに介護保険事業
所を運営していて、月1回敬老会



を開いていた。そのときに「三線」
が通る山田さんを同郷のよし
みで招き「印刷屋を辞めて
いたのがきっかけ」

「それまで、介護の仕事なんて
全然知らなかったし、嫌ななら
だんまりで辞めた山田さん。

実は、中学を出て大阪の某印刷
で印刷工として40年間働いたが、
57歳のときにリストラに遭った。

「まあいい啦、だらり、まあい
世帯やね」

勤めていた印刷屋は小さく工
場で、職人から職人まで全社1人
で担当していたのが、妻さんの
親のよう出来事だった。

その後、警備員を始めて「それだ
の案」に求まったが、半年前のこと。
妻さんの経営の妻、デザイナーとして

オアアアアアアアアアア、人柄の
良さで何となくでもさきさき
買われて入社した。

デザイナーとしての仕事を
断り続けていたが
熱心な誘いに根負けして

最初デザイナーとして働いた
とき、山田さんは固く拒絶した。

「じやべろのが嫌は相手やわ
ら、そんな人間が役に立つはず
ないと思つた」(山田さん)。

それでも妻さんは断るならな
ら、

「なかなか「アエス」があらでな
からだけえつてこく難いけれど。
山田さんは、三線のほかにも歌
事が得意で、しかも大工仕事もや
るし、器用で何でもできる人

知ってましたから。人柄の誠実
さもあるからだし…」

いつまで経っても山田さんが
首を縦に振らなから、妻の果
てに「それだ」「じやべろでいら
ない、来てー」と、きつて言った。

妻に「うう、お母さん、さあ、
山田さんの多様な才能が花開いた。
郊外のトライバードから、デザ
イナーとしての活動的な生活、そして
文庫のボータの設計から施工ま
でを、演習、園芸、畑仕事は趣
味の奥を愛する口口口口口口口口

関の結束のみや園芸園も全社
山田さんが世帯をしよう。

そのほか、休日を親戚集まりと
一海に行ったり、三線の演奏、
ゲームのプレイ、くわい、くわい、
な仕事をしなす。ふふふふふふ
と口下手で朴訥な山田さんが、
利用者さんからの人気は高い。

デザイナーは
社宅で単身生活
週末は岸和田の自宅で
帰って趣味に没頭する

自宅は岸和田にあるのだが、海
浜新田まで通うのは距離があつ
てきついので、ウイークデーは自
宅を離れ、単身社宅で暮らしてい
る。勤務時間は正社員なので、朝
8時半から夕方までだ。

一日の仕事が終わって帰宅し
てから、家で一杯やりながら、好
きな大工仕事をするのが至福の
ひととき。

「大工仕事はらめいたときが
勝負。いろんなアイデアを思
ひだすのも楽しいから」



御家のかけはし
デザイナーとして正社員として働く
やま だ たいすけ
山田 泰史さん 67歳

My history
鹿児島県伊佐市で出生まれ
16歳から大阪府堺市で印刷工として
約40年間働く
大阪の印刷工として約40年
その経験を活かして園芸
8年通ったところの職人になる
スタッフとして正社員になる



社会経験が人を育むケース



御家のかけはし社長
岩のふ子さん

何でもできる
山田さんのような人が
来てくれて
とても助かっています

山田さんのような年代の方
は、人生経験も豊富ですし、
企業で働いてきた方ですので、
介護だけでなく違った感覚を
もっています。

企業で働く、経営戦略的な
ことも経験していることで視
点が違います。新しい事業展
開を考えなければいけない時
代になって、他の職場で働い
てきた方たちから、自由な発
想に基づくアドバイスをもら
えたら、うれしいですね。



手を動かす。

山田さんは、人生初めて
趣味でやってみたことが、いま
全部活かされて、開花している
感じ、と種をよは言っ。人生まだ
なにもない一瞬。

「土曜のお休みの日は農田に
帰って、奥さんと釣りに行きて、新
鮮なうちに料理した魚を煮し入
れてくれたり、大きな畑をお友
だちと一緒に借りていて、ので
収穫した野菜も持ってきてくれ
ます」

ていだの菜には、事業所内に
キッチンがあり、食事もそこで
つくっているの、山田さんの
大根、キャベツ、白菜、玉ねぎが
毎日の食卓に上ってくるも多い。
利用者さんも毎日の食事を楽し
みにしている。

屋上庭園でも、大根やたまご
まな野菜を栽培して、い、気候
のよいときは利用者さんと屋上
に出て、園芸を楽しむ。

無口で口下手の
自分だが、
人と人とは
心でつながれる

ティサービスの仕事を始めた
当初、山田さんは、舌がまわらず、
苦労した。

「最初は嫌いなことを、ずっと
しゃべらなかんから、最初の
うちは嫌いなで、声が枯れて
風邪ひいたみたいに出らんよう
になりました(笑)」

無償員で、仕事人生はもう終
わりと思っていたが、山田さん
の人生は思わぬ方向に開けて
いった。いまは、仕事の減れも
しっかりと理解でき、自分の立ち
位置もわかっている。

人一倍働くのに、相変わらず
の口下手で照れながらも、自分
から進んでスタッフに声をかけ
るのが苦手だ。そこが山田さん
の課題だと、社長は言う。

「こまめにうれしいのは、利用
者さんに『山田さんありがとう』
と声をかけてもらったとき。そ
んなときは嫌れも何も一気に飛
びますわ。人と人とは心でつな
がれると思う瞬間やね」



いちばんうれしいのは、利用者さんから
「ありがとうね」と言われるとき。

山田さんの一日に密着！！



朝 8 時前に田社
かまを助は、空開まわりや部屋を敷まる。
山田さんが自ら育てている草花に水を
やったり、準備に忙しい。



8:15 ころ
利用者さんへ車で出発、送迎開始。



9:15
利用者さん到着。連絡係の人のパッ
グを運んだら、食庫職員をやサポート(ハ
イラルエフェクなど)。



10:30 ~ 11:45
ストレッチ、生活動作改善運動・ラジ
オ体操・認知症予防体操・座下体操
など、利用者さんともに行う。



昼食休憩のサポート
食事の利用者の見張り。



13:30 ~ 足湯の準備。
浴槽を掃除し、湯を張り、湯をセット。



ゲームタイム
自分でつくったゲームで利用者さんが盛り上がる。



音楽療法のひとつ。
得意の三線で独メロを演奏。利用者さんと歌う。



15:30 ~ 送迎開始。



音楽療法のひとつ。
得意の三線で独メロを演奏。利用者さんと歌う。

一日終了

P22 「動画を撮影する」
E タブをタッチ!!

E タイプ

家に閉じこもってないで、だれかのお役に立ちたい！ そんな思いで始めたボランティア活動が生きがいに



「ライフサポーターの仕事には介護保険とは違っていて粹がない。それが面白くて楽しい」

歳を取って一人で生活するほど困りごとが増える。それをお手伝いするのが私たちの役目

68歳になつたころ、主人が大病を患つたので、看病のため、いままでしていた仕事をいっさい辞めました。50代まではフルパートの仕事を始めて、ケニアもやっていましたが、いつかがあるかわからない状況で、職場の人にも迷惑がかかると思っただけなんです。

幸いにも主人の病氣は次第によくなりました。すると、今度はやることなくなつてしまつて、このままではいられず、何かになりたつてしまへ、とある種危機感を抱き始めた...そこで、

ライフサポーター（有償ボランティア）のお話をいただいたのです。

いまは週に一回くらいお仕事させていただいています。内容は依頼のあるご利用者さん（主に高齢の方）のお宅のお掃除や片づけ、外出・教養のサポートなど。うまく条件がマッチしたら、お受けしています。

だれかが歳を取ると困りごとが増えます。ヘルパーさんなどができることを、私たちがボランティアで手伝えるというかなんです。

ふつこの主婦のやること
がサポーター内容だから無理なくできる

サポーターの仕事は、無理や無理がないところが魅力。つまりふつこの主婦ならだれもがやっていることを、ボランティアとして提供していますので、だれでもできます。

しかも、私たちがサポーターは、みんなシニア層ですから、利用者さんとも親近感を抱いてくださいます。仕事のスキルや雇用条件など関係ありませんから、いつでも気軽に参加できます。専業主婦の感覚でも大丈夫です。男性がサポーターの場合も、簡単な大工仕事やドライバー役、ちょっとした力仕事など、無理がなくてあるそうです。

こんなちょっとしたことで、喜んでいただけるなんて、うれしくて張り合いを感じながら動いています。

利用者の方と話すとき、来し方行く末が自然と見えてくる

利用者さんは、80代、90代の高齢者の方が多く、だいたい女子さんという構成だったり近所はほとんど、相談しにくくはな

てあるみたいです。

いま、私が伺っている90歳の方もそんなことで、「ああ、話を聞いてもらってほしかったー」って喜んでくださる。

家族には言えないけど、他人には言えたりするところってあるんですね。私自身も歳を取って生活状況はかわり、「ああ、それもあるーこれもあるー」といった事柄で（笑）。

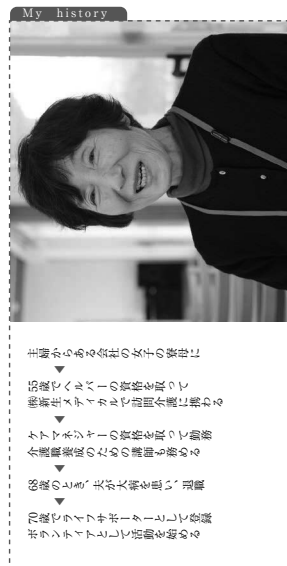
私たちが何うことで、生活が生き生きとしてくる様子が伝わってくるのがうれしいですね。自分を頼りにしてくれる方がいらつしやるというのは、やりがいは感じます。

サポーターの仕事を通して、いろいろな方の人生を知ること、自分の行く末もわかります。利用者と交流して、私たちが生き生きと暮らしている。

人のためって言いながら、結局は自分のため（笑）。私自身も70代で定年まで経ちました。もつと歳を取つたら自分はどうしたいのかを考えたのですが、そのヒントがここにある、と感じています。

ならい法人教団のなつて
ライフサポーターとして

酒井田 久美子さん 74歳



主婦である会社の女性の勤務に
55歳くらいまでの専業主婦として
継続してボランティアで活動中
ネットとインターネットの活用で
介護保険制度の仕組みを学ぶ
68歳から、夫が亡くなった後、介護
70歳からライフサポーターとして活動
80歳からボランティアとして活動中

What's ライフサポーター



介護保険でできないことを
行つて高齢者を支えるのが
私たちのボランティア活動

※ライフサポーターの仕事は、介護保険制度でサービスに入っていない人さんにはできない、日常生活のいろいろな困りごとをお手伝いする活動です。

家族がいても高齢だったり、独居だったり、それに近い状況だったり、と高齢の方を取り巻く状況は困難がつまっています。

サポーターがなくては、少しでも生活が豊かになれば、と通つて取り組んでいる活動です。

主婦でも大丈夫、やりたい仕事の内容、好きな時間帯にやつていただくかなど、多くのシニア層の男女が登録しています。

P23 「働き方診断サポーター」
「タイプをチェック!!」

※ライフサポーターは1回利用すると1,000円（事務費500円+ライフサポーター活動費500円）。サポーターがボランティア活動として参加しています。

母を見送って4年余。自分の老後を考えるようになった 地域でボランティアをしながら、楽しんで暮らす生活がいい



「地域から少しずつ何かを発信したい。
自分が80・90歳になったとき
住みやすいまちであるように」

認知症カフェで
地域の方が私たちと
話すことで少しでも
気持ちが軽くなって
いただければ...

「アララ」が活動するアララ
シカフェには、ボランティアとして
登録しています。月1回カ
フェはあるのですが、最近は毎月
に1度参加しています。

少し前まで、主人の重篤な認知
症でしたが、二人とも奮起
り、子どもも独立しています。手
育中では専業主婦でしたが、一段
落した90代後半から、くまぐまの
仕事もしています。全職の仕事は
時間に融通が利くので、ボラン
ティア活動にも参加することに

なりました。

アララシさんとの出会いは、一
昨年から。かねてより認知症の方
の悩みを、カネコを介していただ
かったり、ボランティア養成講座
を受講したのがきっかけです。

アララシカフェでのボラン
ティア活動の内容は、お茶をお出
ししたり、参加者の方の頼に座っ
て一緒に話したり...

「養老院」にいらした方が、
この養成講座の勉強や知識を授け
たり、養老院に出ている間、ひと
りはとても不安にならないよう
に、お話し相手を務めます。

ボランティアをする
ことで自分自身も
楽しんでいる

認知症
介護福祉士・ボランティア
活動家
山崎 光恵さん 64歳

My history



子育てしながら介護を学ぶ

70歳でくまぐまの資格取得
働き始める

62歳からボランティア養成講座を受講

アララシに参画
ボランティアとして活動始める



「ボランティアに参画しよう」
そんな思いが常に芽生えていたのは、
一昨年のことです。それなら
いろいろなボランティア養成講座を
受け始めました。

きっかけは、自分の将来という
か、老後について考えるようになった
からです。

「自分の老後の心配はなくなったと
いうだろうか」。

自分が住んでいる地域に、し
かり参画して暮らしていないと、
もし認知症になったら、つな
りがなくて、見捨てられるかもしれ
ない。

もちろん仲間づくりをしてお
かないと「だれ？ あの人にな
りかねません。でも、関係を
くつておけば、「誰かを」ぶっ
かしたの？」一緒に話してしま
いよう」って、無に帰すは来なく
れるかもしれない。ですから、私
の目的は「地域に参画」すること、自
分の居場所をつくることです。

仕事は「あらんどころ」で専業主
婦ですが、ボランティアは「自分
が楽しい」感覚がある。庭のい
ちみちも、ある意味、私にいら

は自由で居られる場所ですね。

私たちシニア層が
社会貢献することで
地域に根をす
それが大事、と思う

いま考えているのは、仕事をし
ながら、こんなふうにボランティア
活動を続けていく、ゆくゆく
は近所の仲間とサロンをやれた
らいい...

いまのカネコやサロンって、元
気な方が自分の通院に参加して
いることが多いのですが、身体が
弱くなると参加できなくなり、認
知症になったら、一人で置
きたいかもしれません。

そんな思いは、お茶大事
なのは、身近な場所にあるサロン
です。

町会単位、お隣り同士で手を
つないで、ほっとできるような所
あればいいな、と願っています。

来るのはお年寄りはかりじゃ
なくて、若い人も、子育て中のお
母さん、だれでも来られる場所
をつくるのが私の夢です。

What's 山崎さんへのインタビュー

山崎さんのように、ボラ
ンティアをしてみたい、ボ
ランティア活動に興味があ
る、と思っているのなら、
自分の住んでいるまちの、
社会福祉協議会や、ボラン
ティア協議会に足を運ぶこ
とをおすすめします。
そこでは役に立つボラ
ンティア情報をいろいろ
と教えてくれますし、地域
で活動できるさまざまな
タイプのボランティアを
募集しています。

そのための養成講座も
紹介していますので、便利
です。

P22

「働き方診断チャート」
Dタイプはチェック!!

D
タイプ

企業の努力もそこには必要

民分協理事長

佐藤 優治さん



Talk&Talk

シニア層をもっと活用するには？

シニアが働きやすい環境づくりを！

司会

是枝 祥子さん

大妻女子大学 名誉教授



シニア層の介護業界への参入はこれからどんどん期待される

是枝 少子高齢社会と言われて、高齢者がどんどん増え、介護の必要の方が増えています。ところが、現場で介護を担ってくださる若い方は減っている。そんな状況下、シニアの方々に介護現場にどんどん参入していただきたいと思っていますが…。

佐藤 これから、元気な高齢者が地域の中で活躍できる環境が整います。元気な高齢者が介護の世界に参加してもらえるようしなければ、介護保険制度を維持していくうえでも必要となってくるでしょう。実際、弊社にも50歳以上の社員が何人います。戦力となるシニア層の活躍を業界が渴望しているのではないのでしょうか？

田中 私はいま、65歳ですが、44歳のときに父母を立て続けに亡くしました。そのときに両親をしっかりとケアできなかった思いが動機となっていました。2003年にヘルパーの養成講座を受け、2007年には介護福祉士の資格も取って、現在介護福祉士として、現場で働いています。

柴野 私は新聞社で働いていました

是枝 いろいろある事業者の中で、「カライズ」を選んだ理由は何か？

柴野 たまたま准看護学校のときのクラスメイトが、カライズでアルバイトをしていたのがきっかけです。それまで病院の世界しか知らなくて、そことは違う何かを感じました。

佐藤 田中さんは、「養つばのフレデイ」にはどんな経緯で転職したのですか？

田中 最初は、ライフプランニングセンターというところで介護を勉強しました。その講師に弊社社長の片山がいて、実習も養つばのフレデイに行き、生き生きと働くヘルパーさんたちを見て、いいなと思ったのです。

是枝 いま、柴野さんから介護の世界で働くのは自分のためでもあるといったお話が出ましたが、田中さんはその辺どうですか？

田中 たしかに自分のため、という部分は大きいと思います。結局ヘルパー自身も健康管理をしなければなりません。風邪をひかないように、手の届かないようにと…お食事の支度もしますので、家にずっといるとわがまま放題でも、一歩社会に出ると、多くの方に出会えますし、お叱りを受けることもあります。利用者さ

が、53歳のときに辞め、准看護師の学校に入りました。2年で資格を取ってその後年間勉強して正看護師の資格も取りました。病院勤務の正看護師を60歳まで2年はと働め、ちよっと休もうかと思っていたところに、現在動めているカライズさんからお声がきます。それ以外の火・水・木・金は、別のところで看護師としてフリーで働いています。

是枝 看護師の資格をもちながら、ヘルパーとして働いているんですね？ 珍しいケースですね。

柴野 看護と介護は、実は重なる部分が多いと思います。毎日現場に入り、利用者さんと直接することのできるヘルパーの仕事はエキサイティングです。ヘルパーの仕事に興味をもたきっかけは、自分もいつか衰えていく、看護や介護が必要になったときに、ちゃんとした知識と人脈をもって、セルフタイネットを張り巡らしておくことは絶対プラスになると思ったからです。

ひいては自分の介護予防にも

んのなかには人生のお手本になる方もたくさんいらっしゃるので、学びにもつながります。

柴野 シニア同士が助け合い、かつ自分のこととしても助かるというコンセプトですね。

佐藤 実際に親の介護と対峙したとき、介護をきちんと勉強しなければ、どうこうで興味をもち、リタイアするときに介護の勉強を始めようとする人が結構いますね。柴野さんが53歳でこういう決断をなさったのはすごいことだと思います。理由は40代のころからそういう方が増えるともっといいですね。

柴野 私はそこは、もともとギブしていました(笑)。

田中 40代のころは私も気づかなかった。だんだん歳を重ねて気づくこともありますね。

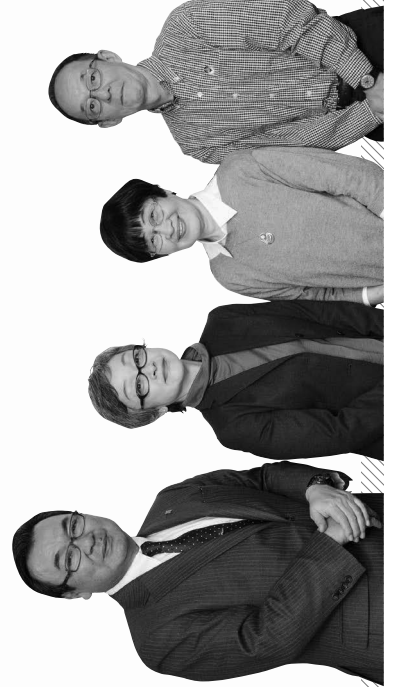
佐藤 歳を重ねたからこそその良きです。

是枝 そういう意味でも介護の仕事は、シニアに向いていると思います。

田中 利用者の方とだんだん年が近くなってくると、気持ちや少し近づける。若いころは両親の気持ちがわからなかったのに、いまやとわかる気がしています。シニアになることで老い

自分より少し先を行く方々と仕事で接することで行く末がわかる老いることを自ら見つけるよい機会にも。

— 利用者さんとも歳が近いシニア層。心も身体のことともよく理解できる —



自分より少し先を行く方々と仕事で接すること で来し方行く末がわかる 老いることを自ら見つめるよい機会にも。

—利用者さんとも歳が近いシニア層。心も身体のことともよく理解できる—



働き方は自分でアレンジできます。

働かろーず／ヘルパー・看護師

柴野 次郎さん 62歳

新聞社に編集者として勤務。
53歳のとき早期退職し、准看護師・正看護師資格を取得。
病院で臨床を経験し、60歳よりフリーに。
現在院がいの見のサポートや、
カラーズでヘルパーの仕事に携わる。

佐藤 現状、50歳以上の方が多いと
柴野 人は相手にしてきましたの
で、やはりコミュニケーションなしに
は成り立たない仕事です。そういつた
意味では介護や看護と共通している
と思います。若いころはどはハッピ
ーじゃない、と感じて日々暮らしている
利用者さんと接するわけですから、対
人関係といえますか、コミュニケー
ションをうまく取ることが重要に
なっています。コミュニケーションに
関しては前の職場でさんさん経験し
てきましたか…。

佐藤 現状、50歳以上の方が多いと
柴野 人は相手にしてきましたの
で、やはりコミュニケーションなしに
は成り立たない仕事です。そういつた
意味では介護や看護と共通している
と思います。若いころはどはハッピ
ーじゃない、と感じて日々暮らしている
利用者さんと接するわけですから、対
人関係といえますか、コミュニケー
ションをうまく取ることが重要に
なっています。コミュニケーションに
関しては前の職場でさんさん経験し
てきましたか…。

佐藤 現状、50歳以上の方が多いと
柴野 人は相手にしてきましたの
で、やはりコミュニケーションなしに
は成り立たない仕事です。そういつた
意味では介護や看護と共通している
と思います。若いころはどはハッピ
ーじゃない、と感じて日々暮らしている
利用者さんと接するわけですから、対
人関係といえますか、コミュニケー
ションをうまく取ることが重要に
なっています。コミュニケーションに
関しては前の職場でさんさん経験し
てきましたか…。

佐藤 現状、50歳以上の方が多いと
柴野 人は相手にしてきましたの
で、やはりコミュニケーションなしに
は成り立たない仕事です。そういつた
意味では介護や看護と共通している
と思います。若いころはどはハッピ
ーじゃない、と感じて日々暮らしている
利用者さんと接するわけですから、対
人関係といえますか、コミュニケー
ションをうまく取ることが重要に
なっています。コミュニケーションに
関しては前の職場でさんさん経験し
てきましたか…。

佐藤 現状、50歳以上の方が多いと
柴野 人は相手にしてきましたの
で、やはりコミュニケーションなしに
は成り立たない仕事です。そういつた
意味では介護や看護と共通している
と思います。若いころはどはハッピ
ーじゃない、と感じて日々暮らしている
利用者さんと接するわけですから、対
人関係といえますか、コミュニケー
ションをうまく取ることが重要に
なっています。コミュニケーションに
関しては前の職場でさんさん経験し
てきましたか…。

柴野 世界はもう少し広い
田中 利用者の方もみなにはそうと
うわがままな方もいらっしゃいます。
でもこちららも経験を積んでいきます
ので、そこに対応できます。これがシニア
のいいところではないでしょうか？
柴野 自分がよりハッピーになるた
めの仕事と考えると楽しいですし、
メリットです。介護の知識を持つてい
ると、その後の人生も大きく変わります。
歳を取る、介護が必要になる、こ
の問題から逃げるわけにはいかない
ので、知識を得ておくことはプラスに
なると思います。この世界を知り、コ
レもできていざというときに助けて
もらえますし。

柴野 世界はもう少し広い
田中 利用者の方もみなにはそうと
うわがままな方もいらっしゃいます。
でもこちららも経験を積んでいきます
ので、そこに対応できます。これがシニア
のいいところではないでしょうか？
柴野 自分がよりハッピーになるた
めの仕事と考えると楽しいですし、
メリットです。介護の知識を持つてい
ると、その後の人生も大きく変わります。
歳を取る、介護が必要になる、こ
の問題から逃げるわけにはいかない
ので、知識を得ておくことはプラスに
なると思います。この世界を知り、コ
レもできていざというときに助けて
もらえますし。

柴野 世界はもう少し広い
田中 利用者の方もみなにはそうと
うわがままな方もいらっしゃいます。
でもこちららも経験を積んでいきます
ので、そこに対応できます。これがシニア
のいいところではないでしょうか？
柴野 自分がよりハッピーになるた
めの仕事と考えると楽しいですし、
メリットです。介護の知識を持つてい
ると、その後の人生も大きく変わります。
歳を取る、介護が必要になる、こ
の問題から逃げるわけにはいかない
ので、知識を得ておくことはプラスに
なると思います。この世界を知り、コ
レもできていざというときに助けて
もらえますし。

柴野 世界はもう少し広い
田中 利用者の方もみなにはそうと
うわがままな方もいらっしゃいます。
でもこちららも経験を積んでいきます
ので、そこに対応できます。これがシニア
のいいところではないでしょうか？
柴野 自分がよりハッピーになるた
めの仕事と考えると楽しいですし、
メリットです。介護の知識を持つてい
ると、その後の人生も大きく変わります。
歳を取る、介護が必要になる、こ
の問題から逃げるわけにはいかない
ので、知識を得ておくことはプラスに
なると思います。この世界を知り、コ
レもできていざというときに助けて
もらえますし。

柴野 世界はもう少し広い
田中 利用者の方もみなにはそうと
うわがままな方もいらっしゃいます。
でもこちららも経験を積んでいきます
ので、そこに対応できます。これがシニア
のいいところではないでしょうか？
柴野 自分がよりハッピーになるた
めの仕事と考えると楽しいですし、
メリットです。介護の知識を持つてい
ると、その後の人生も大きく変わります。
歳を取る、介護が必要になる、こ
の問題から逃げるわけにはいかない
ので、知識を得ておくことはプラスに
なると思います。この世界を知り、コ
レもできていざというときに助けて
もらえますし。



自分の健康管理
介護予防にも

田中 友子さん 65歳

40代で父母を亡くし、十分にケアできなかった
思いがきっかけで、介護の道に。
ヘルパーを経て介護福祉士の資格を取得。
働いたのは介護福祉士と介護予防のためにも
仕事を続けています。



世界はもっと広い
働き方も自分でアレンジ
できる介護の仕事は
シニア層にフィットする

柴野 サラリーマンの世界は男社会
と言いますが、かつてはそのおしい
世界に私はいたわけです。ところが、
看護師になつて180度ひっくり
返ってしまいました。多数派は女性。
師長も看護部長も全部女性で、男の肩
身は非常に狭い笑。でも、多数派が

Q3

年金をもらっていても、働くことは可能ですか？

A3. 介護の職場にはフルタイムで働くだけでなく、さまざまな働き方があります。年金受給額を減らさずに働く方法もあります。

年金額と給与収入の合計金額によっては、年金の一部または全部が支給停止となる在職老齢年金という制度※があります。年金を受給しながら働くとうとする場合、この在職老齢年金制度が適用されるかどうかは大きな関心事でしょう。

その点、介護業界では常に人材が不足しているため、フルタイムで働きたい、夜勤だけ入りたい、週1日午後だけ働きたいといった多様な働き方のニーズに対し、多くの事業所が受け皿を用意しています。通常は、最低週3日以上といった求人条件が多いのですが、介護業界は、働き方にもっとフレキシブルに対応していますから、あなた自身の年金額や都合に合わせて、働く先が見つかる可能性はとても高いのです。

また、定年退職後も「バリバリ稼ぎたい」という方でも、「年齢問わず」の条件で職員を募集している事業所も多いので、行きたい職場が見つかるかもしれません。

※在職老齢年金制度の詳細は、日本年金機構などにお問い合わせください。

年金をもらっているけど大丈夫かな



Q4

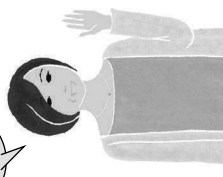
認知症をもつ方との接し方に不安があります。働き始めの前に、ちゃんと研修が受けられますか？

A4. 認知症をもつ方と接する際にはいくつかの留意点があります。研修などで必要な知識を身につけることで、不安はだんだんなくなっていくでしょう。

認知症をもつ方に見られる症状や行動（記憶障害や失語、徘徊、暴言、妄想、睡眠障害など）に初めて遭遇した場合、驚かれる方が多いかもしれません。しかしその症状や行動の背景には、理由と原因があります。専門的な知識に基づく接し方をすれば、表情も穏やかになり、安定します。事業所などでも、認知症に関する正しい知識を得るための研修はよく行われています。

正確な知識と適切な接し方を身につければ、必要以上の不安を感じることはありません。もし、そういった研修を事業所が行っていないければ、そこでの就業やボランティア活動は避けたほうがよいでしょう。

ちゃんと研修が受けられるかしら？



Q5

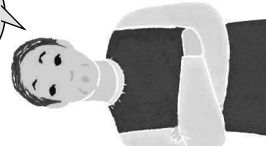
実際に介護の仕事やボランティアをしたいと考えた場合、どこに連絡をすればよいのでしょうか？

A5. ハローワークや都道府県の社会福祉協議会のボランティアセンターなどが一般的ですが、身近にある介護事業所を訪ねてみるのも一つの手です。

介護の仕事の求職方法としては、ハローワークや都道府県の社会福祉協議会が運営する福祉人材センターなどの窓口を訪ねてみるのが一般的な方法です。また、ボランティアであれば、同じく社会福祉協議会が運営するボランティアセンターでも情報を得ることができます。また、身近にある介護事業所を訪ね、相談してみるのも一つの方法でしょう。仕事の身やボランティアとして役立てることなどを尋ねてみてください。実際に働いているスタッフの表情を見ることが、職場の雰囲気もわかります。

介護事業所は、地域の方々のつながりをとても重視しています。まちのよる相談窓口として常に開かれていますので、常日ごろから事業所主催の地域イベントなどにも気軽に参加し、職員に積極的に話しかけてみてください。

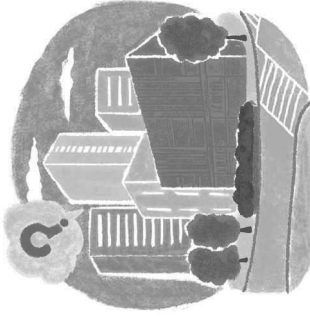
どこに連絡すればいいの？



シニアになってからの就活

不安にお答えする Q&A

この仕事に興味がある。楽しく仕事をしたい。けど・・・資格なしでも大丈夫？？年金をもらって生活していても、働けるのだろうか？どこに行ったら、仕事の相談ができるの？そんな不安にお答えする Q&A です。



Q1

介護業界で働いた経験がなく、資格も持っていません。そんな私でも働けますか？

A1. 経験や資格がなくても活躍の場は多数あります。

趣味を活かすなら、ティザーサービスやグループホームなどでのレクリエーション支援、企業人としてのビジネススキルを活かすなら、事業所の人事や経理業務など、この業界での経験や資格がなくても、活躍できるフィールドがたくさんあります。

これを機に資格にチャレンジしたい、という方には、介護職員初任者研修といった資格取得のための公的な支援が活用できます。また、事業所独自で資格取得のための支援を行っているケースもありますので、そこで働きながら資格を取得することも可能です。

どうしても、一歩を踏み出せないという方には、ボランティアとしてのスタートをお勧めします。介護との接点づくりから始めてみるのも、一つの方法ですね。

経験・資格がないけど大丈夫かな



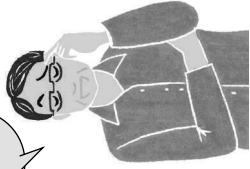
Q2

介護の仕事は重労働のイメージが・・・体力に自信がなくても大丈夫でしょうか？

A2. 介護の仕事は体力が必要なものばかりではありません。

傾聴ボランティアやティザーサービスの送迎、法人の間接業務など、身体的な負担がかからない仕事や活動もたくさんあります。また、資格を取って、介護職として働く場合は、介護技術に関する専門的な研修を受けて身体への負担の少ない方法を学べるので、車いすへの移乗や入浴の支援、体位変換など体力を使う行為も、不安なく行えるようになります。テクノロジーの発達で、介護負担を軽減するロボットを導入も今後増えていくので、身体への負担はさらに減っていくと予想されます。

体力に自信がない



※介護の資格取得に向けた支援については、自治体や介護事業者、各都道府県の介護労働安定センターなどにお問い合わせください。

いくつになっても自分らしさを
発揮できるフィールドがある！



介護の現場で必要とされるシニアの力

平成 29 年 3 月発行
発行 「民間事業者の質を高める」
一般社団法人 全国介護事業者協議会
〒101-0047 東京都千代田区神田 2-5-3 見谷ビル 3F
TEL:03-5289-4381 FAX:03-5289-4382
企画・編集・制作 年友企画㈱
制作協力 ㈱派銀総合研究所

編集委員長
是枝 祥子 大妻女子大学 名誉教授

編集委員
田中 栄子 ㈱ノバネットワークス代表取締役社長（民介協 顧問専任）
田中 守 民介協 専務理事
牧野 史子 NPO法人 介護者サポートネットワークセンター アラジン 代表
石井 久恵 （公財）介護労働安定センター 業務部長
田尻 久美子 ㈱カラス 代表取締役（民介協 理事）
菅野 雅子 フォスターリンク㈱ コンサルタント
迫田 三佳 年友企画㈱ 企画編集部長
田中 知宏 ㈱派銀総合研究所 主任研究員

写真撮影 藤牧 徹也
イラスト 本山 浩子
デザイン 廣田 修/中西 章夫
取材・文 迫田 三佳
執筆協力：田中 知宏

民介協とは？

民介協は、一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（略称：民介協）という在宅介護サービス事業者の全国団体であり、平成 28 年 12 月末時点で 600 社を超える介護事業者が加盟しています。

平成 14 年の団体設立以来、「介護サービスの質を高める」「介護が必要な方の地域での生活を支える」という使命のもと、全国 8 ブロックでの研修会の開催、厚生労働省をはじめとする関係機関への政策提言や要望書の提出、介護の質の向上に向けた調査研究などを実施してきました。

また、特に力を入れている取り組みとして、「全国事例発表会」と「若手経営者研修会」を毎年実施しています。事例発表会は、全国の会員事業者が日々実践しているケアの好事例に関する研究発表を行う場であり、開催回数は 11 回を数えます。他方、若手経営者研修会は、次世代の介護業界を担う若手経営者・経営幹部を対象に 2 泊 3 日の合宿形式で開催していて、次世代育成に特化した、業界内でも珍しい取り組みとして、マスメディア等で取り上げられる機会も増えてきました。

「団塊の世代」が後期高齢者となる 2025 年に向けて、在宅介護サービスのニーズはますます増加していくでしょう。急増する需要に対し、質の高いサービスを継続的に提供していくために、当協議会ではどんなに積極的な活動を行っていくべきかと考えています。

この本のねらい

本書は、これまで介護というものにあまり接点のなかったシニアの方々に、介護業界や介護の仕事の現状と魅力について知っていただくことを目的に、作成いたしました。

介護の仕事は、人が人を支えることがその業務の中心にあります。そのため、気力・体力を要し、苦勞すること、つらさを感じることも少なくありません。しかし、さまざまな人と直接接することがゆえに、人間というものに対する新たな学びや発見がある。何歳になっても成長することができる非常にやりがいのある仕事だと当協議会では考えています。

本書をお読みになり、介護について少しでも興味をおもになった方は、ぜひお近くの介護事業所が主催する地域イベントやセミナーなどに参加してみてください。介護サービスの内容や介護事業所で働く人々のことをより身近に感じていただければ、セカンドキャリアとしての介護の仕事やボランティアの魅力をご理解いただけるものと考えます。本書をお読みになられた方が、介護の現場で活躍されることを楽しみにしております。



「民間事業者の質を高める」
一般社団法人 全国介護事業者協議会
理事長 佐藤 優治

【資料 2】

中高年齢者向けWEBアンケート調査

調査票



あなたご自身に関するアンケート

モニターの皆様へのお願い

本アンケートには、一般に公開していない情報が含まれる場合があります。
アンケート内で知り得た情報について、決して第三者に口外しないよう、お願いします。

「第三者への口外」に含まれる例

- 口頭、電話、メール等で友人・知人に話す
- 掲示板やブログに書き込む
- その他、手段を問わず、情報を第三者に伝達する行為

注意事項

- 複数のアンケート画面を同時に開くと、正常に回答できません。
アンケートはひとつずつ、回答ください。
- アンケートへの回答は、「動作環境」に記載の環境からお願いします。

上記の内容をご確認いただき、同意してご協力いただける場合のみ、「同意し、アンケート開始」を押してアンケートを開始してください。

同意し、アンケート開始

改ページ

問1 必須 あなたは介護事業所で仕事をしたことがありますか。

※本調査における「仕事」とは（1）雇用契約を結び、労働の対価として賃金を受け取ること、あるいは（2）個人経営の事業所の経営をすること（個人事業主）を指します。
※介護事業所での職種や役職は問いません。
※介護事業所を経営していたことがある人は「1.仕事をしたことがある」を選択してください。

- ☐ 1.仕事をしたことがある
- ☐ 2.仕事をしたことがない

次へ

終了条件

SC

優先順位	条件名	条件式
1	調査対象外のため	(問1 or 1)

改ページ

問2
必須

あなたは介護事業所で定期的かつ継続的なボランティア活動に従事した経験がありますか。
※介護事業所でボランティアを行う団体を主宰していた方は「1.経験がある」を選択してください。

- ☐ 1.経験がある
- ☐ 2.経験がない

次へ

終了条件

SC

優先順位	条件名	条件式
2	調査対象外のため	(問2 or 1)

SC終了

終了条件

SC

優先順位	条件名	条件式
1	調査対象外のため	(問1 or 1)
2	調査対象外のため	(問2 or 1)

クォータ設定

SC終了質問

No	項番	質問	改ページ	質問タイプ
1	問2	あなたは介護事業所で定期的かつ継続的なボランティア活動に従事した経験がありますか。 ※介護事業所でボランティアを行う団体を主宰していた方は「1.経験がある」を選択してください。	改ページ	ラジオボタン

本調査対象条件

優先順位	条件名	条件式
1	55歳【男性】	((年齢 or 55歳～55歳) AND (性別 or 男性))
2	56歳【男性】	((年齢 or 56歳～56歳) AND (性別 or 男性))
3	57歳【男性】	((年齢 or 57歳～57歳) AND (性別 or 男性))
4	58歳【男性】	((年齢 or 58歳～58歳) AND (性別 or 男性))
5	59歳【男性】	((年齢 or 59歳～59歳) AND (性別 or 男性))
6	60歳【男性】	((年齢 or 60歳～60歳) AND (性別 or 男性))
7	61歳【男性】	((年齢 or 61歳～61歳) AND (性別 or 男性))
8	62歳【男性】	((年齢 or 62歳～62歳) AND (性別 or 男性))
9	63歳【男性】	((年齢 or 63歳～63歳) AND (性別 or 男性))
10	64歳【男性】	((年齢 or 64歳～64歳) AND (性別 or 男性))
11	65歳【男性】	((年齢 or 65歳～65歳) AND (性別 or 男性))
12	66歳【男性】	((年齢 or 66歳～66歳) AND (性別 or 男性))
13	67歳【男性】	((年齢 or 67歳～67歳) AND (性別 or 男性))
14	68歳【男性】	((年齢 or 68歳～68歳) AND (性別 or 男性))
15	69歳【男性】	((年齢 or 69歳～69歳) AND (性別 or 男性))
16	70歳【男性】	((年齢 or 70歳～70歳) AND (性別 or 男性))
17	55歳【女性】	((年齢 or 55歳～55歳) AND (性別 or 女性))
18	56歳【女性】	((年齢 or 56歳～56歳) AND (性別 or 女性))
19	57歳【女性】	((年齢 or 57歳～57歳) AND (性別 or 女性))
20	58歳【女性】	((年齢 or 58歳～58歳) AND (性別 or 女性))
21	59歳【女性】	((年齢 or 59歳～59歳) AND (性別 or 女性))
22	60歳【女性】	((年齢 or 60歳～60歳) AND (性別 or 女性))
23	61歳【女性】	((年齢 or 61歳～61歳) AND (性別 or 女性))
24	62歳【女性】	((年齢 or 62歳～62歳) AND (性別 or 女性))
25	63歳【女性】	((年齢 or 63歳～63歳) AND (性別 or 女性))
26	64歳【女性】	((年齢 or 64歳～64歳) AND (性別 or 女性))
27	65歳【女性】	((年齢 or 65歳～65歳) AND (性別 or 女性))
28	66歳【女性】	((年齢 or 66歳～66歳) AND (性別 or 女性))
29	67歳【女性】	((年齢 or 67歳～67歳) AND (性別 or 女性))
30	68歳【女性】	((年齢 or 68歳～68歳) AND (性別 or 女性))
31	69歳【女性】	((年齢 or 69歳～69歳) AND (性別 or 女性))
32	70歳【女性】	((年齢 or 70歳～70歳) AND (性別 or 女性))

本調査開始

問3
必須

あなたはどこに住んでいますか。

☐ 1.東京特別区（東京23区）

☐ 2.政令指定都市

☐ 3.その他市区

☐ 4.その他町村

問4 必須 あなたの昨年1年間におけるおおよその世帯年収はどのくらいですか。

- ☐ 1. なし
- ☐ 2. 1万円以上～100万円未満
- ☐ 3. 100万円以上～200万円未満
- ☐ 4. 200万円以上～300万円未満
- ☐ 5. 300万円以上～400万円未満
- ☐ 6. 400万円以上～500万円未満
- ☐ 7. 500万円以上～1,000万円未満
- ☐ 8. 1,000万円以上

次へ

問5 必須 下記の資格の保有・活用状況を教えてください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

【資格の保有状況および仕事をする上での活用状況】

		1. 保有して おられ、 仕事に 活用して いる	2. 保有して いるが、 仕事に 活用して いない	3. 保有して いない
資格				
1. ヘルパー資格	➡	☐	☐	☐
2. 介護福祉士	➡	☐	☐	☐
3. 看護師・准看護師・保健師	➡	☐	☐	☐
4. PT・OT・ST※	➡	☐	☐	☐
5. 社会福祉士	➡	☐	☐	☐
6. その他の医療・福祉系資格	➡	☐	☐	☐

※PTとは「理学療法士」、OTとは「作業療法士」、STとは「言語聴覚士」を指します。

次へ

質問表示条件

条件式

((問5_1 or 1,2) OR (問5_2 or 1,2) OR (問5_3 or 1,2) OR (問5_4 or 1,2) OR (問5_5 or 1,2) OR (問5_6 or 1,2))

問6 必須 ■前問のいずれかの資格について「1.保有しており、仕事上活用している」、あるいは「2.保有しているが、仕事上活用していない」と回答した方にお伺いします■

前問で回答した資格を取得した理由を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.当時行っていた家族等の介護に役立てるため
- ☐ 2.将来、家族等の介護に役立つと思ったから
- ☐ 3.当該資格が必要な職種につくため
- ☐ 4.就職・転職する際に有利と感じたから
- ☐ 5.自己啓発のため
- ☐ 6.昇給・昇格の要件であったから
- ☐ 7.家族や友人・知人に勧められたから
- ☐ 8.進学した先が医療・福祉関係の学校だったから
- ☐ 9.その他
- ☐ 10.特に理由はない(排他)

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

((問5_1 or 2) OR (問5_2 or 2) OR (問5_3 or 2) OR (問5_4 or 2) OR (問5_5 or 2) OR (問5_6 or 2))

問7 必須 ■問5で、いずれかの資格について「2.保有しているが、仕事上活用していない」と回答した方にお伺いします■

先程、回答した資格を活用していない理由を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.今の仕事では資格が不要だから
- ☐ 2.仕事自体をしていないから
- ☐ 3.家族介護等の必要がなくなったから
- ☐ 4.自己啓発のために取得したから
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特に理由はない(排他)

次へ

改ページ

問8 必須 現在、あなたが働いている業種（業界）を教えてください。

※現在、仕事をしておらず、家庭での家事や育児を主におこなっている場合は「17. 主婦（主夫）業」を選択してください。

- | | |
|---|--|
| ☐ 1.農林水産業 | ☐ 10.宿泊業・飲食サービス業 |
| ☐ 2.建設業 | ☐ 11.生活関連サービス業、娯楽業 |
| ☐ 3.製造業 | ☐ 12.教育、学習支援業 |
| ☐ 4.情報通信業 | ☐ 13.医療・福祉 |
| ☐ 5.運輸業、郵便業 | ☐ 14.サービス業（他に分類されないもの） |
| ☐ 6.卸売業、小売業 | ☐ 15.公務 |
| ☐ 7.金融業、保険業 | ☐ 16.その他 |
| ☐ 8.不動産業、物品賃貸業 | ☐ 17.主婦（主夫）業 |
| ☐ 9.学術研究、専門・技術サービス業 | ☐ 18.仕事をしていない |

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問8 or 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16)

問9 必須 ■問8で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします■

現在のあなたの就業形態を教えてください。

※会社等の法人を設立せずに自ら事業を行っている方は「7.自営業主」を選択してください。

- ☐ 1.正規社員・正規職員
- ☐ 2.派遣社員・派遣職員
- ☐ 3.契約社員・契約職員
- ☐ 4.パート・アルバイト
- ☐ 5.会社、法人等の役員
- ☐ 6.嘱託社員・嘱託職員
- ☐ 7.自営業主
- ☐ 8.家族従業者

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問9 or 1,2,3,4,6,7,8)

問10 必須 ■問8で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします■

現在、あなたがお就きになられている職業の分類（職種）を教えてください。

（※）なお、どの職種に分類されるかわからない方は下記のURLを参照してください。
https://www.hellowork.go.jp/info/job_dictionary.html

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 1.管理的職業 | ☐ 7.農林漁業の職業 |
| ☐ 2.専門的・技術的職業 | ☐ 8.生産工程の職業 |
| ☐ 3.事務的職業 | ☐ 9.輸送・機械運転の職業 |
| ☐ 4.販売の職業 | ☐ 10.建設・採掘の職業 |
| ☐ 5.サービスの職業 | ☐ 11.運搬・清掃・包装等の職業 |
| ☐ 6.保安の職業 | |

次へ

改ページ

問11 必須 あなたがこれまでに最も長く働いた業種（業界）を教えてください。

※今まで仕事をしておらず、家庭での家事や育児を主におこなっていた場合は「17.主婦（主夫）業」を選択してください。

- | | |
|---|--|
| ☐ 1.農林水産業 | ☐ 10.宿泊業・飲食サービス業 |
| ☐ 2.建設業 | ☐ 11.生活関連サービス業、娯楽業 |
| ☐ 3.製造業 | ☐ 12.教育、学習支援業 |
| ☐ 4.情報通信業 | ☐ 13.医療・福祉 |
| ☐ 5.運輸業、郵便業 | ☐ 14.サービス業（他に分類されないもの） |
| ☐ 6.卸売業、小売業 | ☐ 15.公務 |
| ☐ 7.金融業、保険業 | ☐ 16.その他 |
| ☐ 8.不動産業、物品賃貸業 | ☐ 17.主婦（主夫）業 |
| ☐ 9.学術研究、専門・技術サービス業 | ☐ 18.仕事をしたことがない |

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問11 or 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16)

問12
必須

■前問で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします■

あなたが今まで経験した職業の分類（職種）の中で、最も経験の長いものを教えてください。

（※）なお、どの職種に分類されるかわからない方は下記のURLを参照してください。
https://www.hellowork.go.jp/info/job_dictionary.html

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 1.管理的職業 | ☐ 7.農林漁業の職業 |
| ☐ 2.専門的・技術的職業 | ☐ 8.生産工程の職業 |
| ☐ 3.事務的職業 | ☐ 9.輸送・機械運転の職業 |
| ☐ 4.販売の職業 | ☐ 10.建設・採掘の職業 |
| ☐ 5.サービスの職業 | ☐ 11.運搬・清掃・包装等の職業 |
| ☐ 6.保安の職業 | |

次へ

改ページ

問13
必須

あなたは今後、仕事をするについてどのように考えていますか。
なお、60歳未満の方で現在仕事をされている方は、現在の職場を定年退職した後を想定して
ご回答ください。

- ☐ 1.仕事をしたい
- ☐ 2.やや仕事をしたい
- ☐ 3.どちらともいえない
- ☐ 4.あまり仕事をしたくない
- ☐ 5.仕事をしたくない

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問13 or 1,2)

問14
必須

■前問で「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします■

あなたは、何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。
(半角数字でご記入ください)

テキストボックス1 歳 くらいまで 【必須】(数字のみ(小数不可))(制限あり:55以上150以内)

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問13 or 1,2)

問15
必須

■問13で、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします■

仕事をしたい理由について教えてください。
(いくつでも)

- | | |
|--|---|
| ☐ 1.生活費を得るため | ☐ 9.自分の健康を維持するため |
| ☐ 2.生活水準を上げるため | ☐ 10.社会や地域に貢献したいため |
| ☐ 3.自分のお小遣いのため | ☐ 11.自分の視野を広げたいため |
| ☐ 4.借金・ローンの返済のため | ☐ 12.友人・知人を増やしたいため |
| ☐ 5.別居する子・孫への仕送りのため | ☐ 13.余暇の時間を有効に使いたいため |
| ☐ 6.子や孫にお小遣いをあげるため | ☐ 14.自分で起業を試みたいため |
| ☐ 7.将来の生活資金のため | ☐ 15.その他 |
| ☐ 8.子や孫の将来のため | ☐ 16.特に理由はない(排他) |

次へ

改ページ

条件設定

その他条件

回答数制限

あり（1以上3まで）

質問表示条件

条件式

(問13 or 1,2)

問16

必須

■問13で、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします■

今後、仕事をする上で重視することを教えてください。

(3つまで)

1.働く時間・日数が希望に合致すること

2.働く場所が自宅に近いこと

3.賃金・給与水準が希望に合致すること

4.自身の仕事上の経験や技術が生かせること

5.自分の趣味等の経験や技術が生かせること

6.職場内で明確な役割が与えられること

7.体力的に負担がないこと

8.精神的に負担がないこと

9.年齢に関係なく採用してくれること

10.法人の業績が良いこと

11.法人の知名度が高いこと

12.地域・社会へ貢献できること

13.知人・友人が職場内にいること

14.同年代が職場内にいること

15.新しい知人・友人が得られること

16.新しい技術や知識が得られること

17.現在働いている業種で働き続けられること

18.現在働いている職種で働き続けられること

19.現在働いている組織で働き続けられること

20.人に使われない仕事であること

21.職場の人間関係が良好であること

22.仕事と家庭の両立ができること

23.その他

24.特にない(排他)

次へ

質問表示条件

条件式

(問13 or 3,4,5)

問17 必須 ■前問で「3.どちらともいえない」「4.あまり仕事をしたくない」「5.仕事をしたくない」のいずれかを回答した方に対してお伺いします■

前問で選択した回答を選んだ理由について教えてください。
(いくつでも)

- | | |
|--|--|
| ☐ 1.時間に縛られず自由に生活をしたいため | ☐ 10.自身の経験や能力でできる仕事がないと思うため |
| ☐ 2.仕事をする体力がないため | ☐ 11.自分の年齢で働ける職場がないため |
| ☐ 3.趣味やボランティア活動等に時間を費やしたいため | ☐ 12.新しい仕事を覚えるのが大変なため |
| ☐ 4.自身の健康上の理由のため | ☐ 13.人に使われたくないため |
| ☐ 5.家族の介護に時間をとられるため | ☐ 14.子や孫の育児に時間をとられるため |
| ☐ 6.家事に時間をとられるため | ☐ 15.仕事をするきっかけがないから |
| ☐ 7.他人と接するのがおっくうなため | ☐ 16.その他 |
| ☐ 8.仕事自体したくないため | ☐ 17.特に理由はない(排他) |
| ☐ 9.年金、退職金等で十分に生活ができるため | |

次へ

改ページ

問18 必須 あなたのボランティア活動への参加状況を教えてください。

- ☐ 1.参加している
- ☐ 2.以前は参加していたが、現在は参加していない
- ☐ 3.参加したことがない

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問18 or 1,2)

問19 必須 ■前問で「1.参加している」あるいは「2.以前は参加していたが、現在は参加していない」と回答した方にお伺いします■

参加している（参加していた）ボランティア活動の分野・領域を教えてください。
（いくつでも）

- | | |
|--|--|
| ☐ 1.高齢者に対する活動 | ☐ 9.災害時支援・防災活動 |
| ☐ 2.障害者・障害児に対する活動 | ☐ 10.観光案内活動 |
| ☐ 3.子育て世帯、およびその児童に対する活動 | ☐ 11.人権・平和活動 |
| ☐ 4.スポーツに関連した活動 | ☐ 12.交通安全・防犯活動 |
| ☐ 5.芸術や歴史・文化に関連した活動 | ☐ 13.その他公民館・学校等での教育活動 |
| ☐ 6.自然保護・環境保全活動 | ☐ 14.地域イベント（夏祭りなど）の運営支援 |
| ☐ 7.公園管理・地域美化活動 | ☐ 15.生涯学習に関する活動 |
| ☐ 8.国際交流活動 | ☐ 16.その他 |

次へ

改ページ

問20 必須 あなたの今後のボランティア活動への参画意向を教えてください。

- ☐ 1.主宰・参加いずれも行いたい
- ☐ 2.（参加は難しいが）主宰をしたい
- ☐ 3.（主宰は難しいが）参加はしたい
- ☐ 4.どちらともいえない
- ☐ 5.主宰・参加いずれも行うつもりはない

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(問20 or 1,2,3)

問21
必須

■前問で「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方にお伺いします■

参画をしたいボランティア活動の分野・領域を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.高齢者に対する活動

☐ 2.障害者・障害児に対する活動

☐ 3.子育て世帯、およびその児童に対する活動

☐ 4.スポーツに関連した活動

☐ 5.芸術や歴史・文化に関連した活動

☐ 6.自然保護・環境保全活動

☐ 7.公園管理・地域美化活動

☐ 8.国際交流活動

☐ 9.災害時支援・防災活動

☐ 10.観光案内活動

☐ 11.人権・平和活動

☐ 12.交通安全・防犯活動

☐ 13.その他公民館・学校等での教育活動

☐ 14.地域イベント（夏祭りなど）の運営支援

☐ 15.生涯学習に関する活動

☐ 16.その他

次へ

改ページ

条件設定

その他条件

回答数制限

あり（1以上3まで）

質問表示条件

条件式

(問20 or 1,2,3)

問22
必須

■問20で、「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方にお伺いします■

ボランティア活動へ参画する上で重視することを教えてください。
(3つまで)

- ☐ 1.活動する時間・日数が希望に合致すること

☐ 2.活動場所が自宅に近いこと

☐ 3.交通費等の活動に係る経費が負担してもらえること

☐ 4.自身の経験や技術が生かせること

☐ 5.自身の活動内での役割が明確であること

☐ 6.体力的に負担がないこと

☐ 7.精神的に負担がないこと

☐ 8.活動する団体の信頼度が高いこと

☐ 9.活動団体の知名度が高いこと

☐ 10.地域・社会へ貢献できること

☐ 11.知人・友人が参加していること

☐ 12.活動する仲間との人間関係が良好であること

☐ 13.同年代が参加していること

☐ 14.新しい知人・友人が得られること

☐ 15.新しい技術や知識が得られること

☐ 16.自身の健康維持につながる

☐ 17.団体の考えや理念に自身が共感できること

☐ 18.その他

☐ 19.特になし(排他)

次へ

質問表示条件

条件式

(問20 or 4,5)

問23 必須 ■前問で「4.どちらともいえない」「5.主宰・参加いずれも行うつもりはない」のいずれかを回答した方にお伺いします■

前問で選択した回答を選んだ理由について教えてください。
(いくつでも)

- | | |
|--|--|
| ☐ 1.時間に縛られずに自由に生活をしたいため | ☐ 9.他人と接するのがおっくうなため |
| ☐ 2.参加する体力がないため | ☐ 10.関心がある活動がないため |
| ☐ 3.趣味等に時間を費やしたいため | ☐ 11.自宅の近くでの活動がないため |
| ☐ 4.自身の健康上の理由のため | ☐ 12.活動団体等の情報入手が困難なため |
| ☐ 5.家族介護に時間をとられるため | ☐ 13.外出時の交通手段がないため |
| ☐ 6.家事に時間をとられるため | ☐ 14.活動へ参画するきっかけがないから |
| ☐ 7.子や孫の育児に時間をとられるため | ☐ 15.その他 |
| ☐ 8.仕事に時間をとられるため | ☐ 16.特に理由はない(排他) |

次へ

質問表示条件

条件式

((問20 or 1,2,3) OR (問23 or 14))

問24 必須 ■問20で、「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方、あるいは問23で「14.活動へ参画するきっかけがないから」と回答した方にお伺いします■

ボランティア活動に参画する際のきっかけとして、どのようなものがあればよいとお考えになれるか教えてください。
(いくつでも)

- | |
|---|
| ☐ 1.家族や友人からの活動への勧誘・お誘い |
| ☐ 2.ボランティア団体による研修・セミナー |
| ☐ 3.行政や社協によるボランティア研修・セミナー |
| ☐ 4.行政や社協の広報誌やホームページでのボランティア活動の紹介 |
| ☐ 5.回覧板や掲示板でのボランティア活動の紹介 |
| ☐ 6.ボランティア団体によるチラシやホームページ等での活動紹介 |
| ☐ 7.テレビや新聞によるボランティア活動の紹介 |
| ☐ 8.ボランティア活動にトライアルで参加する機会の提供 |
| ☐ 9.所属する組織や町内会によるボランティア活動の実施 |
| ☐ 10.その他： <input type="text"/> (回答必須)(入力制限なし)(文字数制限なし) |

次へ

問25 必須 あなたのご家族（親戚も含めます）に介護が必要な方はいますか。
※同居していない場合も含みます。

- ☐ 1.いる
- ☐ 2.過去にいたが、現在はいない
- ☐ 3.いない

次へ

質問表示条件

条件式

(問25 or 1,2)

問26 必須 ■前問で「1.いる」あるいは「2.過去にいたが、現在はいない」と回答した方にお伺いします
■
あなたはそのご家族の介護にどのくらい関わっていますか（関わりましたか）。

- ☐ 1.主たる介護者である（介護者であった）
- ☐ 2.一部、関わっている（関わっていた）
- ☐ 3.ほとんど関わっていない（関わっていなかった）

次へ

質問表示条件

条件式

(問26 or 1,2)

問27 必須 ■前問で「1.主たる介護者である（介護者であった）」「2.一部、関わっている（関わっていた）」と回答した方にお伺いします■
あなたが実施したご家族への介護について、全体を通じて提供したいと考えている（考えていた）介護が実施できていますか（できましたか）。

- ☐ 1.実施できている（できた）
- ☐ 2.ある程度実施できている（できた）
- ☐ 3.どちらともいえない
- ☐ 4.あまり実施できていない（できなかった）
- ☐ 5.実施できていない（できなかった）

次へ

問28-1 必須 あなたの家族（親戚も含めます）や友人・知人について、介護の仕事をしている人はいますか。
（矢印方向にそれぞれひとつだけ）

		1. いる	2. いない
1. 家族	➡	☐	☐
2. 知人・友人	➡	☐	☐

次へ

改ページ

条件設定

引継ぎ設定

質問アイテム

No	引継ぎ元質問	回答 非回答	引継ぎ項目	表示項目	引継ぎ条件
1	問28-1.あなたの家族（親戚も含めます）や友人・知人について、介護の仕事をしている人はいますか。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）	回答	1.家族	家族	1.いる
			2.知人・友人	知人・友人	

問28-2 必須 ■前問で「1.いる」を選んだ人にお伺いします■

介護の仕事をしている家族や知人・友人は、介護の仕事をどのように評価していますか。
（矢印方向にそれぞれひとつだけ）

		1. 好意的	2. やや好意的	3. 普通	4. やや否定的	5. 否定的
1. 家族 ⚙	➡	☐	☐	☐	☐	☐
2. 知人・友人 ⚙	➡	☐	☐	☐	☐	☐

次へ

改ページ

問29 必須 あなたと近隣の介護事業所との接点を教えてください。
（いくつでも）

- | | |
|--|--|
| ☐ 1.あなたやご家族が介護保険サービスを利用している | ☐ 8.家族や友人・知人が働いている |
| ☐ 2.あなたやご家族が介護保険外のサービスを利用している | ☐ 9.運営推進会議のメンバーである |
| ☐ 3.活動に対して寄付等を行っている | ☐ 10.現在の仕事の一環で介護事業所と付き合いがある |
| ☐ 4.事業所主催の祭り等の行事に参加している | ☐ 11.その他 |
| ☐ 5.事業所主催のセミナー・勉強会に参加している | ☐ 12.特に接点はない(排他) |
| ☐ 6.町内会や自治会等のメンバーとして交流がある | ☐ 13.近くに介護事業所がない(排他) |
| ☐ 7.事業所の設備や建物等を利用している | |

次へ

問30 あなたの介護に関する知識の入手方法を教えてください。
必須 (いくつでも)

- | | |
|---|---|
| ☐ 1.介護専門の新聞・雑誌・書籍の記事 | ☐ 9.自治体や行政機関によるセミナー |
| ☐ 2.介護専門でない一般の新聞・雑誌・本の記事 | ☐ 10.社会福祉協議会によるセミナー |
| ☐ 3.行政・社協の広報物 | ☐ 11.介護業界団体・職能団体によるセミナー |
| ☐ 4.回覧板・掲示板 | ☐ 12.介護サービスを利用する家族や友人・知人 |
| ☐ 5.インターネット（SNS含む） | ☐ 13.介護事業所で働く家族や友人・知人 |
| ☐ 6.テレビ・ラジオ | ☐ 14.12、13以外の家族や友人・知人 |
| ☐ 7.介護事業者によるセミナー | ☐ 15.その他 |
| ☐ 8.地域包括支援センターによるセミナー | ☐ 16.特に情報は入手していない(排他) |

次へ

問31 あなたが介護業界や介護の仕事に対して抱えているイメージを教えてください。
必須 (いくつでも)

- | | |
|--|---|
| ☐ 1.社会的な意義が大きい | ☐ 17.離職率が高い |
| ☐ 2.今後成長していく | ☐ 18.向いている・向いていないがはっきりする |
| ☐ 3.資格や専門知識を活かせる | ☐ 19.社会的地位や評判が低い |
| ☐ 4.色々な人と交流できる | ☐ 20.補助金・助成金頼みの法人が多い |
| ☐ 5.やりがいがある | ☐ 21.知名度が低い法人が多い |
| ☐ 6.専門知識や技術が身につく | ☐ 22.規模が小さい法人が多い |
| ☐ 7.雇用不安が少ない | ☐ 23.福利厚生が充実していない |
| ☐ 8.長く働くことが可能である | ☐ 24.給与体系が明確でない法人が多い |
| ☐ 9.介護職以外にも多様な活躍の場がある | ☐ 25.働く人が特定の層に偏っている |
| ☐ 10.仕事と家庭の両立ができる | ☐ 26.尊敬できる人がいない |
| ☐ 11.早い段階で責任ある役職につける | ☐ 27.人手不足の法人が多い |
| ☐ 12.自分のアイデアが仕事に反映できる | ☐ 28.職場の人間関係が大変そうである |
| ☐ 13.体力的にきつい | ☐ 29.他業界に転職することが難しい |
| ☐ 14.精神的にきつい | ☐ 30.経営層のマネジメントが未熟である |
| ☐ 15.給与水準が低い | ☐ 31.その他 |
| ☐ 16.他人の人生に関わるので大変である | ☐ 32.特にイメージはない(排他) |

次へ

問32
必須

介護業界や介護の仕事に対する総合的なイメージを教えてください。

- ☐ 1.非常によい
- ☐ 2.よい
- ☐ 3.まあまあよい
- ☐ 4.どちらともいえない
- ☐ 5.あまりよくない
- ☐ 6.よくない
- ☐ 7.非常によくない

次へ

改ページ

問33 必須 あなたが仕事をする上で重視することが満たされた場合、以下の介護に関連する仕事をしてみたいと思いますか。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

※仕事をする上で重視することについては、例えば、下記の選択肢を参考にしてください。

1. 働く時間・日数が希望に合致すること
2. 働く場所が自宅に近いこと
3. 賃金・給与水準が希望に合致すること
4. 自身の仕事上の経験や技術が生かせること
5. 自分の趣味等の経験や技術が生かせること
6. 体力的に負担がないこと
7. 精神的に負担がないこと
8. 年齢に関係なく採用してくれること
9. 法人の業績が良いこと
10. 法人の知名度が高いこと
11. 地域・社会へ貢献できること
12. 知人・友人が職場内にいること
13. 同年代が職場内にいること
14. 新しい知人・友人が得られること
15. 新しい技術や知識が得られること
16. 現在働いている業種で働き続けられること
17. 現在働いている職種で働き続けられること
18. 現在働いている組織で働き続けられること
19. 人に使われない仕事であること
20. 職場の人間関係が良好であること
21. 家庭との両立ができること
22. その他
23. 特にない

[意向]

	1. 仕事を したい	2. やや 仕事を したい	3. どちら ともい えない	4. あまり 仕事を したく ない	5. 仕事 をし たく ない
職種					
1. ホームヘルパー（※1）	➡	☐	☐	☐	☐
2. ホームヘルパー（生活援助のみ）（※2）	➡	☐	☐	☐	☐
3. 特別養護老人ホームや通所介護事業所等での介護職（※3）	➡	☐	☐	☐	☐
4. 特別養護老人ホームや通所介護事業所等での介護補助職（※4）	➡	☐	☐	☐	☐
5. 間接部門での仕事（※5）	➡	☐	☐	☐	☐
6. マネジメント業務（※6）	➡	☐	☐	☐	☐
7. その他（※7）： （回答任意）	➡	☐	☐	☐	☐
（回答任意）（入力制限なし）（文字数制限なし）					
8. 介護事業所の起業	➡	☐	☐	☐	☐

※1 介護が必要な方の自宅等を訪問し、食事、排せつ、入浴などの介助を通じ、要介護者等の生活を支えるサービスを提供する仕事。

※2 ※1のうち、調理や洗濯、掃除といった利用者の生活を援助するサービスのみを提供する仕事。

（入浴や排せつといった要介護者等の身体に触れる介護をする仕事は含まない。）

※3 特別養護老人ホームや通所介護事業所等で勤務し、当該施設を利用している、あるいは入居している要介護者に対して、食事、排せつ、入浴などの介助を通じ、生活を支えるサービスを提供する仕事。

※4 特別養護老人ホームや通所介護事業所等で勤務し、送迎や営繕、食事の配膳やシーツ交換、掃除、洗濯、利用者が行うレクリエーションの補助などを行なう仕事。

※5 事業所内の直接部門（介護部門）の業務を支援する部門に従事する仕事であり、具体的には人事・経理・総務・情報システム等の事務作業に携わる仕事。

※6 事業所内の直接部門や間接部門の業務を管理する仕事。

※7 1～6いずれにもあてはまらない仕事（具体的に記入）。

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

((問33_1 or 1,2) OR (問33_2 or 1,2) OR (問33_3 or 1,2) OR (問33_4 or 1,2) OR (問33_5 or 1,2) OR (問33_6 or 1,2) OR (問33_7 or 1,2))

問34 必須 ■前問の1～7いずれかにおいて、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします■

他の仕事と比較して特に介護に関連する仕事をする上で不安を感じる点を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.体力的に仕事が続けられるか不安を感じる
- ☐ 2.勤務日や勤務時間帯について希望が通らないのではないかと不安を感じる
- ☐ 3.休暇が取得しづらいのではないかと不安を感じる
- ☐ 4.おむつ交換や排泄介助など排泄ケアができるか不安を感じる
- ☐ 5.認知症の方への対応ができるか不安を感じる
- ☐ 6.人の死に身近に接することに不安を感じる
- ☐ 7.(介護や福祉に関する)専門的な技能が身に付けられるか不安を感じる
- ☐ 8.1人で利用者に接することになるのではないかと不安を感じる
- ☐ 9.職場の人間関係が良くないのではないかと不安を感じる
- ☐ 10.顧客(利用者)との人間関係の構築がうまくいかないのではないかと不安を感じる
- ☐ 11.いきなり現場での仕事を任されるのではないかと不安を感じる
- ☐ 12.(事業所の都合等で)補助職や間接部門の担当でも介護職として働くことになるのではないかと不安を感じる
- ☐ 13.給与体系や人事評価の仕組みが不明瞭なのではないかと不安を感じる
- ☐ 14.給与水準が低いのではないかと不安を感じる
- ☐ 15.入職後に実際にやることになる仕事のイメージがつかめず不安を感じる
- ☐ 16.その他: (回答任意)(入力制限なし)(文字数制限なし)
- ☐ 17.特に不安はない(排他)

次へ

改ページ

問35 必須 あなたがボランティア活動を行う上で重視することが満たされた場合、以下の介護に関連するボランティア活動を行ないたいと思いますか。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

※ボランティア活動を行う上で重視することについては、例えば、下記の選択肢を参考にしてください。

- 1.活動する時間・日数が希望に合致すること
- 2.活動場所が自宅に近いこと
- 3.交通費等の活動に係る経費が負担してもらえること
- 4.自身の経験や技術が生かせること
- 5.体力的に負担がないこと
- 6.精神的に負担がないこと
- 7.活動する団体の信頼度が高いこと
- 8.活動団体の知名度が高いこと
- 9.地域・社会へ貢献できること
- 10.知人・友人が参加していること
- 11.活動する仲間との人間関係が良好であること
- 12.同年代が参加していること
- 13.新しい知人・友人が得られること
- 14.新しい技術や知識が得られること
- 15.自身の健康維持につながる
- 16.団体の考えや理念に自身が共感できること
- 17.その他
- 18.特になし

[意向]

	1. 活動 したい	2. やや 活動 したい	3. ど ち ら と も い え な い	4. あ ま り 活 動 し た く な い	5. 活 動 し た く な い
ボランティア活動					
1. 訪問系ボランティア活動（※1）	➡	☐	☐	☐	☐
2. 施設等でのアクティビティ支援等のボランティア活動（※2）	➡	☐	☐	☐	☐
3. 施設等での2.以外のボランティア活動（※3）	➡	☐	☐	☐	☐
4. 地域で行われる高齢者を対象とした交流会等の支援（※4）	➡	☐	☐	☐	☐
5. 介護のボランティア活動の側面支援（※5）	➡	☐	☐	☐	☐
6. その他（※6）： (回答任意)	➡	☐	☐	☐	☐
 (回答任意)(入力制限なし)(文字数制限なし)					
7. 民生委員・社会福祉推進委員	➡	☐	☐	☐	☐
8. 介護のボランティア団体の立ち上げ	➡	☐	☐	☐	☐
9. 介護のボランティア団体に対するプロボノ活動（※7）	➡	☐	☐	☐	☐

※1 要介護者を含む高齢者の自宅等を訪問し、調理や掃除などの家事援助、電球交換やゴミ出しなどのちょっとした手伝い、囲碁や将棋の相手や話し相手となるなどの活動。
※2 特別養護老人ホームや通所介護事業所などにおいて、利用者に対し、自分の趣味を生かしたレクリエーション支援（編み物教室、絵画教室、生け花教室等の講師など）や介護予防のための運動の支援、外出支援などを行う活動。
※3 特別養護老人ホームや通所介護事業所等で食事の配膳やシーツ交換、掃除、洗濯などを行う活動。相対的に利用者とは直接接点を持つ機会が少ない活動。
※4 公民館等において行われる地域の要介護者を含む高齢者を対象とした茶話会や食事会、介護予防教室などの運営支援。
※5 ボランティア活動に関連する事務作業やチラシづくり、会計等などの手伝いを通じ、運営を側面から支える活動。
※6 1～5にあてはまらない活動（具体的に記入）。
※7 自らの専門知識や技能を生かして、介護のボランティア団体に対して、第三者的な立場から助言等を行う社会貢献活動。

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

((問35_1 or 1,2) OR (問35_2 or 1,2) OR (問35_3 or 1,2) OR (問35_4 or 1,2) OR (問35_5 or 1,2) OR (問35_6 or 1,2) OR (問35_7 or 1,2))

問36
必須

■前問の1～7のいずれかにおいて「1.活動したい」あるいは「2.やや活動したい」と回答した方にお伺いします■

他の領域のボランティア活動と比較し、特に介護に関連するボランティア活動を行う上で不安を感じる点を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.体力的に活動が続けられるか不安を感じる
- ☐ 2.活動をともに行うボランティア間の人間関係が良くないのではないかと不安を感じる
- ☐ 3.活動が強制や義務のようになってしまうのではないかと不安を感じる
- ☐ 4.活動の対象である高齢者等との人間関係の構築がうまくいかないのではないかと不安を感じる
- ☐ 5.ボランティアに必要な技能・知識を身に付けられるか不安を感じる
- ☐ 6.自身が活動に対してどのような手伝いができるか分からず不安を感じる
- ☐ 7.介護職になるよう参加する団体や事業所側から促されるのではないかと不安を感じる
- ☐ 8.活動に要する費用等について自己負担が大きくなるのではないかと不安を感じる
- ☐ 9.その他： (回答任意)(入力制限なし)(文字数制限なし)
- ☐ 10.特に不安はない(排他)

次へ

改ページ

質問表示条件

条件式

(((((問33_1 or 3,4,5) AND (問33_2 or 3,4,5) AND (問33_3 or 3,4,5) AND (問33_4 or 3,4,5) AND (問33_5 or 3,4,5) AND (問33_6 or 3,4,5) AND (問33_7 or 3,4,5)) AND ((問35_1 or 3,4,5) AND (問35_2 or 3,4,5) AND (問35_3 or 3,4,5) AND (問35_4 or 3,4,5) AND (問35_5 or 3,4,5) AND (問35_6 or 3,4,5) AND (問35_7 or 3,4,5))))

問37
必須

■問33の「1.ホームヘルパー」～「7.その他」でいずれも「3.どちらともいえない」「4.あまり仕事をしたくない」あるいは「5.仕事をしたくない」と回答し、また、問35の「1.訪問系ボランティア活動」～「7.民生委員・社会福祉推進委員」で「3.どちらともいえない」あるいは「4.あまり活動したくない」「5.活動したくない」と回答した方にお伺いします■

他の仕事やボランティア活動と比較して、特に介護に関連する仕事やボランティアをしたくないと考える理由を教えてください。
(いくつでも)

- ☐ 1.体力的にきついから

☐ 2.精神的にきついから

☐ 3.給与水準が低いから

☐ 4.他人の人生に関わることが大変そうだから

☐ 5.新しい知識や技術を覚えるのが大変だから

☐ 6.介護関係の資格を持っていないから

☐ 7.介護に向いていないと思うから

☐ 8.介護業界や仕事の社会的地位や評価が低いから

☐ 9.自分が働いた（活動した）ことのある業界や領域以外関心がないから

☐ 10.家族から理解が得られないから

☐ 11. 家族や友人・知人が以前利用した事業所やボランティア団体の質がよくなかったから

☐ 12.高齢者と接することが苦手だから

☐ 13.健康上の理由で働くことが難しいから

☐ 14.介護の仕事やボランティアの内容がイメージできないから

☐ 15.そもそも仕事やボランティアをしたくないから

☐ 16.介護事業所や介護ボランティア団体との接点がないから

☐ 17.その他： (回答任意)(入力制限なし)(文

☐ 18.特に理由はない(排他)

次へ

アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。

【あなたご自身に関するアンケート】の獲得ポイント

〇〇ポイント

閉じる

【資料 3】

中高年齢者向けWEBアンケート調査

単純集計表

■単純集計表

問 1.あなたは介護事業所で仕事をすることがありますか。

※本調査における「仕事」とは（1）雇用契約を結び、労働の対価として賃金を受け取ること、あるいは（2）個人経営の事業所の経営をすること（個人事業主）を指します。

※介護事業所での職種や役職は問いません。

※介護事業所を経営していたことがある人は「1.仕事をすることがある」を選択してください。

	n	%
全体	1500	100.0
仕事をすることがある	0	0.0
仕事をすることがない	1500	100.0

問 2.あなたは介護事業所で定期的かつ継続的なボランティア活動に従事した経験がありますか。

※介護事業所でボランティアを行う団体を主宰していた方は「1.経験がある」を選択してください。

	n	%
全体	1500	100.0
経験がある	0	0.0
経験がない	1500	100.0

問 3.あなたはどこに住んでいますか。

	n	%
全体	1500	100.0
東京特別区(東京 23 区)	152	10.1
政令指定都市	417	27.8
その他市区	810	54.0
その他町村	121	8.1

問 4.あなたの昨年 1 年間におけるおおよその世帯年収はどのくらいですか。

	n	%
全体	1500	100.0
なし	67	4.5
1 円以上～100 万円未満	98	6.5
100 万円以上～200 万円未満	150	10.0
200 万円以上～300 万円未満	224	14.9
300 万円以上～400 万円未満	214	14.3
400 万円以上～500 万円未満	211	14.1
500 万円以上～1,000 万円未満	364	24.3
1,000 万円以上	172	11.5

問 5.下記の資格の保有・活用状況を教えてください。(それぞれひとつだけ)

	n	保有しており、 仕事上活用している	保有しているが、 仕事上活用していない	保有していない
ヘルパー資格	1500 100.0	0 0.0	36 2.4	1464 97.6
介護福祉士	1500 100.0	0 0.0	1 0.1	1499 99.9
看護師・准看護師・保健師	1500 100.0	3 0.2	2 0.1	1495 99.7
PT・OT・ST	1500 100.0	0 0.0	0 0.0	1500 100.0
社会福祉士	1500 100.0	0 0.0	0 0.0	1500 100.0
その他の医療・福祉系資格	1500 100.0	15 1.0	26 1.7	1459 97.3

問 6.前問のいずれかの資格について「1.保有しており、仕事上活用している」、あるいは「2.保有しているが、仕事上活用していない」と回答した方にお伺いします。前問で回答した資格を取得した理由を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	82	100.0
当時行っていた家族等の介護に役立てるため	9	11.0
将来、家族等の介護に役立つと思ったから	15	18.3
当該資格が必要な職種につくため	18	22.0
就職・転職する際に有利と感じたから	20	24.4
自己啓発のため	9	11.0
昇給・昇格の要件であったから	1	1.2
家族や友人・知人に勧められたから	3	3.7
進学した先が医療・福祉関係の学校だったから	11	13.4
その他	9	11.0
特に理由はない	9	11.0

問 7.問 5 で、いずれかの資格について「2.保有しているが、仕事上活用していない」と回答した方にお伺いします。先程、回答した資格を活用していない理由を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	64	100.0
今の仕事では資格が不要だから	9	14.1
仕事自体をしていないから	27	42.2
家族介護等の必要がなくなったから	7	10.9
自己啓発のために取得したから	10	15.6
その他	7	10.9
特に理由はない	10	15.6

問 8.現在、あなたが働いている業種（業界）を教えてください。

	n	%
全体	1500	100.0
農林水産業	7	0.5
建設業	45	3.0
製造業	94	6.3
情報通信業	27	1.8
運輸業、郵便業	23	1.5
卸売業、小売業	88	5.9
金融業、保険業	26	1.7
不動産業、物品賃貸業	32	2.1
学術研究、専門・技術サービス業	12	0.8
宿泊業・飲食サービス業	26	1.7
生活関連サービス業、娯楽業	17	1.1
教育、学習支援業	77	5.1
医療・福祉	22	1.5
サービス業(他に分類されないもの)	97	6.5
公務	38	2.5
その他	78	5.2
主婦(主夫)業	429	28.6
仕事をしていない	362	24.1

問 9.前問で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします。現在のあなたの就業形態を教えてください。

※会社等の法人を設立せずに自ら事業を行っている方は「7.自営業主」を選択してください。

	n	%
全体	709	100.0
正規社員・正規職員	240	33.9
派遣社員・派遣職員	11	1.6
契約社員・契約職員	67	9.4
パート・アルバイト	188	26.5
会社、法人等の役員	36	5.1
嘱託社員・嘱託職員	20	2.8
自営業主	133	18.8
家族従業者	14	2.0

問 10.問 8 で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします。現在、あなたがお就きになられている職業の分類（職種）を教えてください。

	n	%
全体	673	100.0
管理的職業	102	15.2
専門的・技術的職業	171	25.4
事務的職業	127	18.9
販売の職業	79	11.7
サービスの職業	116	17.2
保安の職業	16	2.4
農林漁業の職業	5	0.7
生産工程の職業	22	3.3
輸送・機械運転の職業	7	1.0
建設・採掘の職業	7	1.0
運搬・清掃・包装等の職業	21	3.1

問 11.あなたがこれまでに最も長く働いた業種（業界）を教えてください。

	n	%
全体	1500	100.0
農林水産業	7	0.5
建設業	76	5.1
製造業	248	16.5
情報通信業	66	4.4
運輸業、郵便業	44	2.9
卸売業、小売業	144	9.6
金融業、保険業	124	8.3
不動産業、物品賃貸業	20	1.3
学術研究、専門・技術サービス業	31	2.1
宿泊業・飲食サービス業	32	2.1
生活関連サービス業、娯楽業	21	1.4
教育、学習支援業	124	8.3
医療・福祉	44	2.9
サービス業（他に分類されないもの）	133	8.9
公務	106	7.1
その他	101	6.7
主婦（主夫）業	145	9.7
仕事をすることがない	34	2.3

問 12.前問で「1.農林水産業」～「16.その他」のいずれかを回答した方にお伺いします。あなたが今まで経験した職業の分類（職種）の中で、最も経験の長いものを教えてください。

	n	%
全体	1321	100.0
管理的職業	190	14.4
専門的・技術的職業	399	30.2
事務的職業	367	27.8
販売の職業	142	10.7
サービスの職業	123	9.3
保安の職業	16	1.2
農林漁業の職業	2	0.2
生産工程の職業	48	3.6
輸送・機械運転の職業	12	0.9
建設・採掘の職業	10	0.8
運搬・清掃・包装等の職業	12	0.9

問 13.あなたは今後、仕事をする事についてどのように考えていますか。なお、60 歳未満の方で現在仕事をされている方は、現在の職場を定年退職した後を想定してご回答ください。

	n	%
全体	1500	100.0
仕事をしたい	345	23.0
やや仕事をしたい	267	17.8
どちらともいえない	268	17.9
あまり仕事をしたくない	203	13.5
仕事をしたくない	417	27.8

問 14.前問で「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします。あなたは、何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。(半角数字でご記入ください)

	値
全体	612
平均値	69.82
最小値	55.00
最大値	100.00

問 15.問 13 で、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします。仕事をしたい理由について教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	612	100.0
生活費を得るため	378	61.8
生活水準をあげるため	149	24.3
自分のお小遣いのため	243	39.7
借金・ローンの返済のため	62	10.1
別居する子・孫への仕送りのため	10	1.6
子や孫にお小遣いをあげるため	59	9.6
将来の生活資金のため	193	31.5
子や孫の将来のため	47	7.7
自分の健康を維持するため	349	57.0
社会や地域に貢献したいため	157	25.7
自分の視野を広げたいため	158	25.8
友人・知人を増やしたいため	69	11.3
余暇の時間を有効に使いたいため	179	29.2
自分で起業をしてみたいため	15	2.5
その他	17	2.8
特に理由はない	6	1.0

問 16.問 13 で、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします。今後、仕事をする上で重視することを教えてください。(3 つまで)

	n	%
全体	612	100.0
働く時間・日数が希望に合致すること	349	57.0
働く場所が自宅に近いこと	239	39.1
賃金・給与水準が希望に合致すること	144	23.5
自身の仕事上の経験や技術が生かせること	176	28.8
自分の趣味等の経験や技術が生かせること	43	7.0
職場内で明確な役割が与えられること	22	3.6
体力的に負担がないこと	133	21.7
精神的に負担がないこと	100	16.3
年齢に関係なく採用してくれること	75	12.3
法人の業績が良いこと	3	0.5
法人の知名度が高いこと	1	0.2
地域・社会へ貢献できること	37	6.0
知人・友人が職場内にいること	5	0.8
同年代が職場内にいること	9	1.5
新しい知人・友人が得られること	9	1.5
新しい技術や知識が得られること	16	2.6
現在働いている業種で働き続けられること	37	6.0
現在働いている職種で働き続けられること	35	5.7
現在働いている組織で働き続けられること	23	3.8
人に使われない仕事であること	27	4.4
職場の人間関係が良好であること	66	10.8
仕事と家庭の両立ができること	39	6.4
その他	6	1.0
特になし	14	2.3

問 17.前問で「3.どちらともいえない」「4.あまり仕事をしたくない」「5.仕事をしたくない」のいずれかを回答した方に対してお伺いします。前問で選択した回答を選んだ理由について教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	888	100.0
時間に縛られず自由に生活をしたいため	343	38.6
仕事をする体力がないため	134	15.1
趣味やボランティア活動等に時間を費やしたいため	159	17.9
自身の健康上の理由のため	92	10.4
家族の介護に時間をとられるため	45	5.1
家事に時間をとられるため	46	5.2
他人と接するのがおっくうなため	55	6.2
仕事自体したくないため	89	10.0
年金、退職金等で十分に生活ができるため	195	22.0
自身の経験や能力のできる仕事がないと思うため	57	6.4
自分の年齢で働ける職場がないため	192	21.6
新しい仕事を覚えるのが大変なため	65	7.3
人に使われたくないため	60	6.8
子や孫の育児に時間をとられるため	27	3.0
仕事をするきっかけがないから	47	5.3
その他	26	2.9
特に理由はない	124	14.0

問 18.あなたのボランティア活動への参加状況を教えてください。

	n	%
全体	1500	100.0
参加している	189	12.6
以前は参加していたが、現在は参加していない	241	16.1
参加したことがない	1070	71.3

問 19.前問で「1.参加している」あるいは「2.以前は参加していたが、現在は参加していない」と回答した方にお伺いします。参加している（参加していた）ボランティア活動の分野・領域を教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	430	100.0
高齢者に対する活動	64	14.9
障害者・障害児に対する活動	57	13.3
子育て世帯、およびその児童に対する活動	44	10.2
スポーツに関連した活動	57	13.3
芸術や歴史・文化に関連した活動	35	8.1
自然保護・環境保全活動	50	11.6
公園管理・地域美化活動	45	10.5
国際交流活動	24	5.6
災害時支援・防災活動	50	11.6
観光案内活動	7	1.6
人権・平和活動	6	1.4
交通安全・防犯活動	26	6.0
その他公民館・学校等での教育活動	50	11.6
地域イベント(夏祭りなど)の運営支援	104	24.2
生涯学習に関する活動	29	6.7
その他	69	16.0

問 20.あなたの今後のボランティア活動への参画意向を教えてください。

	n	%
全体	1500	100.0
主宰・参加いずれも行いたい	45	3.0
(参加は難しいが)主宰をしたい	3	0.2
(主宰は難しいが)参加はしたい	339	22.6
どちらともいえない	591	39.4
主宰・参加いずれも行うつもりはない	522	34.8

問 21.前問で「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方にお伺いします。参画をしたいボランティア活動の分野・領域を教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	387	100.0
高齢者に対する活動	98	25.3
障害者・障害児に対する活動	60	15.5
子育て世帯、およびその児童に対する活動	90	23.3
スポーツに関連した活動	62	16.0
芸術や歴史・文化に関連した活動	85	22.0
自然保護・環境保全活動	108	27.9
公園管理・地域美化活動	66	17.1
国際交流活動	39	10.1
災害時支援・防災活動	67	17.3
観光案内活動	48	12.4
人権・平和活動	17	4.4
交通安全・防犯活動	47	12.1
その他公民館・学校等での教育活動	70	18.1
地域イベント(夏祭りなど)の運営支援	105	27.1
生涯学習に関する活動	71	18.3
その他	27	7.0

問 22.問 20 で、「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方にお伺いします。ボランティア活動へ参画する上で重視することを教えてください。（3 つまで）

	n	%
全体	387	100.0
活動する時間・日数が希望に合致すること	197	50.9
活動場所が自宅に近いこと	163	42.1
交通費等の活動に係る経費が負担してもらえること	51	13.2
自身の経験や技術が生かせること	100	25.8
自身の活動内での役割が明確であること	39	10.1
体力的に負担がないこと	81	20.9
精神的に負担がないこと	60	15.5
活動する団体の信頼度が高いこと	41	10.6
活動団体の知名度が高いこと	1	0.3
地域・社会へ貢献できること	96	24.8
知人・友人が参加していること	9	2.3
活動する仲間との人間関係が良好であること	55	14.2
同年代が参加していること	14	3.6
新しい知人・友人が得られること	23	5.9
新しい技術や知識が得られること	9	2.3
自身の健康維持につながる	30	7.8
団体の考えや理念に自身が共感できること	57	14.7
その他	2	0.5
特になし	9	2.3

問 23.前問で「4.どちらともいえない」「5.主宰・参加いずれも行うつもりはない」のいずれかを回答した方にお伺いします。前問で選択した回答を選んだ理由について教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	1113	100.0
時間に縛られずに自由に生活をしたいため	338	30.4
参加する体力がないため	187	16.8
趣味等に時間を費やしたいため	151	13.6
自身の健康上の理由のため	119	10.7
家族介護に時間をとられるため	61	5.5
家事に時間をとられるため	61	5.5
子や孫の育児に時間をとられるため	37	3.3
仕事に時間をとられるため	108	9.7
他人と接するのがおっくうなため	124	11.1
関心がある活動がないため	96	8.6
自宅の近くでの活動がないため	76	6.8
活動団体等の情報入手が困難なため	22	2.0
外出時の交通手段がないため	18	1.6
活動へ参画するきっかけがないから	160	14.4
その他	43	3.9
特に理由はない	241	21.7

問 24.問 20 で、「1.主宰・参加いずれも行いたい」～「3.（主宰は難しいが）参加はしたい」のいずれかを回答した方、あるいは問 23 で「14.活動へ参画するきっかけがないから」と回答した方にお伺いします。ボランティア活動に参画する際のきっかけとして、どのようなものがあればよいとお考えになられるか教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	547	100.0
家族や友人からの活動への勧誘・お誘い	245	44.8
ボランティア団体による研修・セミナー	152	27.8
行政や社協によるボランティア研修・セミナー	144	26.3
行政や社協の広報誌やホームページでのボランティア活動の紹介	144	26.3
回覧板や掲示板でのボランティア活動の紹介	109	19.9
ボランティア団体によるチラシやホームページ等での活動紹介	108	19.7
テレビや新聞によるボランティア活動の紹介	70	12.8
ボランティア活動にトライアルで参加する機会の提供	151	27.6
所属する組織や町内会によるボランティア活動の実施	136	24.9
その他:	8	1.5

問 25.あなたのご家族（親戚も含めます）に介護が必要な方はいますか。※同居していない場合も含みます。

	n	%
全体	1500	100.0
いる	385	25.7
過去にいたが、現在はいない	278	18.5
いない	837	55.8

問 26.前問で「1.いる」あるいは「2.過去にいたが、現在はいない」と回答した方にお伺いします。あなたはご家族の介護にどのぐらい関わっていますか（関わりましたか）。

	n	%
全体	663	100.0
主たる介護者である（介護者であった）	213	32.1
一部、関わっている（関わっていた）	291	43.9
ほとんど関わっていない（関わっていなかった）	159	24.0

問 27.前問で「1.主たる介護者である（介護者であった）」「2.一部、関わっている（関わっていた）」と回答した方にお伺いします。あなたが実施したご家族への介護について、全体を通じて提供したいと考えている（考えていた）介護が実施できていますか（できましたか）。

	n	%
全体	504	100.0
実施できている（できた）	70	13.9
ある程度実施できている（できた）	245	48.6
どちらともいえない	116	23.0
あまり実施できていない（できなかった）	63	12.5
実施できていない（できなかった）	10	2.0

問 28-1.あなたの家族（親戚も含めます）や友人・知人について、介護の仕事をしている人はいますか。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）

	n	いる	いない
1.家族	1500 100.0	150 10.0	1350 90.0
2.知人・友人	1500 100.0	390 26.0	1110 74.0

問 28-2.前問で「1.いる」を選んだ人にお伺いします。介護の仕事をしている家族や知人・友人は、介護の仕事をどのよう
に評価していますか。（それぞれひとつだけ）

	n	好意的	やや好意的	普通	やや否定的	否定的
1.家族	150 100.0	49 32.7	42 28.0	46 30.7	10 6.7	3 2.0
2.知人・友人	390 100.0	105 26.9	93 23.8	162 41.5	29 7.4	1 0.3

問 29.あなたと近隣の介護事業所との接点を教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	1500	100.0
あなたやご家族が介護保険サービスを利用している	224	14.9
あなたやご家族が介護保険外のサービスを利用している	26	1.7
活動に対して寄付等を行っている	11	0.7
事業所主催の祭り等の行事に参加している	27	1.8
事業所主催のセミナー・勉強会に参加している	6	0.4
町内会や自治会等のメンバーとして交流がある	40	2.7
事業所の設備や建物等を利用している	15	1.0
家族や友人・知人が働いている	128	8.5
運営推進会議のメンバーである	4	0.3
現在の仕事の一環で介護事業所と付き合いがある	10	0.7
その他	32	2.1
特に接点はない	945	63.0
近くに介護事業所がない	146	9.7

問 30.あなたの介護に関する知識の入手方法を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	1500	100.0
介護専門の新聞・雑誌・書籍の記事	53	3.5
介護専門でない一般の新聞・雑誌・本の記事	153	10.2
行政・社協の広報物	257	17.1
回覧板・掲示板	121	8.1
インターネット(SNS 含む)	275	18.3
テレビ・ラジオ	232	15.5
介護事業者によるセミナー	17	1.1
地域包括支援センターによるセミナー	36	2.4
自治体や行政機関によるセミナー	38	2.5
社会福祉協議会によるセミナー	25	1.7
介護業界団体・職能団体によるセミナー	7	0.5
介護サービスを利用する家族や友人・知人	146	9.7
介護事業所で働く家族や友人・知人	141	9.4
12、13 以外の家族や友人・知人	72	4.8
その他	35	2.3
特に情報は入手していない	737	49.1

問 31.あなたが介護業界や介護の仕事に対して抱いているイメージを教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	1500	100.0
社会的な意義が大きい	602	40.1
今後成長していく	266	17.7
資格や専門知識を活かせる	194	12.9
色々な人と交流できる	58	3.9
やりがいがある	134	8.9
専門知識や技術が身につく	89	5.9
雇用不安が少ない	64	4.3
長く働くことが可能である	78	5.2
介護職以外にも多様な活躍の場がある	39	2.6
仕事と家庭の両立ができる	12	0.8
早い段階で責任ある役職につける	2	0.1
自分のアイデアが仕事に反映できる	5	0.3
体力的にきつい	938	62.5
精神的にきつい	674	44.9
給与水準が低い	733	48.9
他人の人生に関わるので大変である	314	20.9
離職率が高い	572	38.1
向いている・向いていないがはっきりする	289	19.3
社会的地位や評判が低い	279	18.6
補助金・助成金頼みの法人が多い	174	11.6
知名度が低い法人が多い	72	4.8
規模が小さい法人が多い	203	13.5
福利厚生が充実していない	175	11.7
給与体系が明確でない法人が多い	205	13.7
働く人が特定の層に偏っている	76	5.1
尊敬できる人がいない	15	1.0
人手不足の法人が多い	552	36.8
職場の人間関係が大変そうである	195	13.0
他業界に転職することが難しい	26	1.7
経営層のマネジメントが未熟である	92	6.1
その他	13	0.9
特にイメージはない	209	13.9

問 32.介護業界や介護の仕事に対する総合的なイメージを教えてください。

	n	%
全体	1500	100.0
非常によい	25	1.7
よい	137	9.1
まあまあよい	198	13.2
どちらともいえない	536	35.7
あまりよくない	448	29.9
よくない	113	7.5
非常によくない	43	2.9

問 33.あなたが仕事をする上で重視することが満たされた場合、以下の介護に関連する仕事をしてみたいと思いますか。
(それぞれひとつだけ)

※なお、問 13 において「仕事をしたくない」を選択した方の回答も含まれている点に留意されたい。

	n	仕事をしたい	やや仕事をしたい	どちらともいえない	あまり仕事をしたくない	仕事をしたくない
ホームヘルパー	1500 100.0	3 0.2	26 1.7	238 15.9	327 21.8	906 60.4
ホームヘルパー(生活援助のみ)	1500 100.0	3 0.2	75 5.0	256 17.1	285 19.0	881 58.7
特別養護老人ホームや 通所介護事業所等での介護職	1500 100.0	2 0.1	20 1.3	220 14.7	319 21.3	939 62.6
特別養護老人ホームや 通所介護事業所等での介護補助職	1500 100.0	5 0.3	37 2.5	224 14.9	315 21.0	919 61.3
間接部門での仕事	1500 100.0	12 0.8	151 10.1	330 22.0	221 14.7	786 52.4
マネジメント業務	1500 100.0	16 1.1	126 8.4	332 22.1	233 15.5	793 52.9
その他	1230 100.0	5 0.4	11 0.9	212 17.2	147 12.0	855 69.5
介護事業所の起業	1500 100.0	4 0.3	18 1.2	170 11.3	188 12.5	1120 74.7

問 34.前問の 1～7 いずれかにおいて、「1.仕事をしたい」あるいは「2.やや仕事をしたい」と回答した方にお伺いします。
他の仕事と比較して特に介護に関連する仕事をする上で不安を感じる点を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	239	100.0
体力的に仕事が続けられるか不安を感じる	157	65.7
勤務日や勤務時間帯について希望が通らないのではないかと不安を感じる	85	35.6
休暇が取得しづらいのではないかと不安を感じる	84	35.1
おむつ交換や排泄介助など排泄ケアができるか不安を感じる	119	49.8
認知症の方への対応ができるか不安を感じる	129	54.0
人の死に身近に接することに不安を感じる	70	29.3
(介護や福祉に関する)専門的な技能が身に付けられるか不安を感じる	44	18.4
1人で利用者に接することになるのではないかと不安を感じる	23	9.6
職場の人間関係が良くないのではないかと不安を感じる	43	18.0
顧客(利用者)との人間関係の構築がうまくいかないのではないかと不安を感じる	39	16.3
いきなり現場での仕事を任されるのではないかと不安を感じる	34	14.2
(事業所の都合等で)補助職や間接部門の担当でも 介護職として働くことになるのではないかと不安を感じる	38	15.9
給与体系や人事評価の仕組みが不明瞭なのではないかと不安を感じる	40	16.7
給与水準が低いのではないかと不安を感じる	77	32.2
入職後に実際にやることになる仕事のイメージがつかめず不安を感じる	42	17.6
その他:	1	0.4
特に不安はない	12	5.0

問 35.あなたがボランティア活動を行う上で重視することが満たされた場合、以下の介護に関連するボランティア活動を行ないたいと思いますか。（それぞれひとつだけ）※問 20 で「主宰・参加いずれも行うつもりはない」を選択した方の回答も含まれている点に留意されたい。

	n	活動したい	やや活動したい	どちらともいえない	あまり活動したくない	活動したくない
1.訪問系ボランティア活動	1500 100.0	8 0.5	94 6.3	310 20.7	299 19.9	789 52.6
2.施設等でのアクティビティ支援等のボランティア活動	1500 100.0	10 0.7	118 7.9	317 21.1	295 19.7	760 50.7
3.施設等での 2.以外のボランティア活動	1500 100.0	12 0.8	102 6.8	334 22.3	286 19.1	766 51.1
4.地域で行われる高齢者を対象とした交流会等の支援	1500 100.0	16 1.1	149 9.9	351 23.4	253 16.9	731 48.7
5.介護のボランティア活動の側面支援	1500 100.0	13 0.9	139 9.3	358 23.9	248 16.5	742 49.5
6.その他	1221 100.0	2 0.2	12 1.0	265 21.7	169 13.8	773 63.3
7.民生委員・社会福祉推進委員	1500 100.0	14 0.9	67 4.5	287 19.1	273 18.2	859 57.3
8.介護のボランティア団体の立ち上げ	1500 100.0	4 0.3	19 1.3	188 12.5	255 17.0	1034 68.9
9.介護のボランティア団体に対するプロボノ活動	1500 100.0	4 0.3	23 1.5	213 14.2	249 16.6	1011 67.4

問 36.前問の 1～7 のいずれかにおいて「1.活動したい」あるいは「2.やや活動したい」と回答した方にお伺いします。
 他の領域のボランティア活動と比較し、特に介護に関連するボランティア活動を行う上で不安を感じる点を教えてください。（いくつでも）

	n	%
全体	286	100.0
体力的に活動が続けられるか不安を感じる	172	60.1
活動とともに行うボランティア間の人間関係が良くないのではないかと不安を感じる	61	21.3
活動が強制や義務のようになってしまわないかと不安を感じる	115	40.2
活動の対象である高齢者等との人間関係の構築がうまくいかないのではないかと不安を感じる	76	26.6
ボランティアに必要な技能・知識を身に付けられるか不安を感じる	89	31.1
自身が活動に対してどのような手伝いができるか分からず不安を感じる	95	33.2
介護職になるよう参加する団体や事業所側から促されるのではないかと不安を感じる	41	14.3
活動に要する費用等について自己負担が大きくなるのではないかと不安を感じる	67	23.4
その他	1	0.3
特に不安はない	27	9.4

問 37.問 33 の「1.ホームヘルパー」～「7.その他」でいずれも「3.どちらともいえない」「4.あまり仕事をしたくない」あるいは「5.仕事をしたくない」と回答し、また、問 35 の「1.訪問系ボランティア活動」～「7.民生委員・社会福祉推進委員」で「3.どちらともいえない」あるいは「4.あまり活動したくない」「5.活動したくない」と回答した方にお伺いします。他の仕事やボランティア活動と比較して、特に介護に関連する仕事やボランティアをしたくないと考える理由を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	920	100.0
体力的にきついから	504	54.8
精神的にきついから	361	39.2
給与水準が低いから	179	19.5
他人の人生に関わることが大変そうだから	197	21.4
新しい知識や技術を覚えるのが大変だから	62	6.7
介護関係の資格を持っていないから	184	20.0
介護に向いていないと思うから	234	25.4
介護業界や仕事の社会的地位や評価が低いから	31	3.4
自分が働いた(活動した)ことのある業界や領域以外関心がないから	27	2.9
家族から理解が得られないから	12	1.3
家族や友人・知人が以前利用した事業所やボランティア団体の質がよくなかったから	10	1.1
高齢者と接することが苦手だから	102	11.1
健康上の理由で働くことが難しいから	92	10.0
介護の仕事やボランティアの内容がイメージできないから	26	2.8
そもそも仕事やボランティアをしたくないから	89	9.7
介護事業所や介護ボランティア団体との接点がないから	37	4.0
その他:	26	2.8
特に理由はない	166	18.0

【アンケート回答者の属性】

	n	%
全体	1500	100.0
55 歳【男性】	42	2.8
56 歳【男性】	42	2.8
57 歳【男性】	41	2.7
58 歳【男性】	40	2.7
59 歳【男性】	42	2.8
60 歳【男性】	43	2.9
61 歳【男性】	43	2.9
62 歳【男性】	46	3.1
63 歳【男性】	48	3.2
64 歳【男性】	51	3.4
65 歳【男性】	54	3.6
66 歳【男性】	59	3.9
67 歳【男性】	58	3.9
68 歳【男性】	55	3.7
69 歳【男性】	34	2.3
70 歳【男性】	35	2.3
55 歳【女性】	42	2.8
56 歳【女性】	43	2.9
57 歳【女性】	42	2.8
58 歳【女性】	41	2.7
59 歳【女性】	43	2.9
60 歳【女性】	44	2.9
61 歳【女性】	44	2.9
62 歳【女性】	47	3.1
63 歳【女性】	50	3.3
64 歳【女性】	53	3.5
65 歳【女性】	57	3.8
66 歳【女性】	63	4.2
67 歳【女性】	62	4.1
68 歳【女性】	59	3.9
69 歳【女性】	37	2.5
70 歳【女性】	40	2.7

性別

	n	%
全体	1500	100.0
男性	733	48.9
女性	767	51.1

年齢（__歳）

	値
全体	1500
平均値	62.77
最小値	55.00
最大値	70.00

都道府県

	n	%
全体	1500	100.0
北海道	84	5.6
青森県	10	0.7
岩手県	9	0.6
宮城県	25	1.7
秋田県	9	0.6
山形県	9	0.6
福島県	11	0.7
茨城県	26	1.7
栃木県	20	1.3
群馬県	17	1.1
埼玉県	104	6.9
千葉県	77	5.1
東京都	201	13.4
神奈川県	138	9.2
新潟県	23	1.5
富山県	10	0.7
石川県	13	0.9
福井県	6	0.4
山梨県	7	0.5
長野県	14	0.9
岐阜県	17	1.1
静岡県	44	2.9
愛知県	107	7.1
三重県	18	1.2
滋賀県	17	1.1
京都府	36	2.4
大阪府	128	8.5
兵庫県	81	5.4
奈良県	23	1.5
和歌山県	11	0.7
鳥取県	5	0.3
島根県	4	0.3
岡山県	20	1.3
広島県	33	2.2
山口県	10	0.7
徳島県	7	0.5
香川県	6	0.4
愛媛県	15	1.0
高知県	1	0.1
福岡県	54	3.6
佐賀県	3	0.2
長崎県	8	0.5
熊本県	16	1.1

大分県	5	0.3
宮崎県	7	0.5
鹿児島県	8	0.5
沖縄県	3	0.2
海外	0	0.0

【資料 4】

講演資料

～中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等～

民介協「平成28年度 老人保健健康増進等事業 成果報告」

～中高年齢者の介護分野への参入 に向けた阻害要因等～

2017年2月18日

有識者検討委員会 座長

大妻女子大学 名誉教授

是枝 祥子

実施事業名・背景

- 事業名・・・中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等の実態把握並びに実態に即した啓発ツールの開発に関する調査研究
- 介護分野への人材の参入促進「すそ野を拡げる」・・・中高年齢者を想定
- 実際に中高年齢層人材を活用している事業者では、挨拶や身だしなみなどの基本マナー、家事技術の習得、対象者とコミュニケーション、評価、中高年齢層向けの啓発が手薄、中高年になってから始める不安が多い
- 参入阻害要因、働き方、参入支援策や促進への期待に関する調査がない状況

事業の目的

- 中高年齢層の介護分野への参入に関する実態把握と実態に即した啓発ツールの開発を目的
- 全国規模のアンケート調査を通じて参入に関する意向等を詳細に把握
- 介護分野で中高年齢者を活用している事業者へのヒヤリングを通して、事業者として求める人材像や職域の手法・視点、教育体制を把握
- 働いている中高年齢者本人にヒヤリング・・・介護分野で働く前後を比較した(働く前にイメージしていた)阻害要因に対する感覚の変化、具体的な働き方
- 啓発シート作成・・・「働き方診断シート(仮称)」「介護分野の仕事紹介リーフレット(仮称)」

事業の特徴

- 在宅介護事業者が多数加盟している全国規模の事業者団体としてのネットワークを活用し、先進的な中高年齢層人材の活用事例の掘り起こし
- 過去に若年層向け啓発ツールを作成したノウハウを活用・・・啓発ツール作成
- 全国研修会や会員ネットワークを通じ、調査研究成果の普及啓発や中高年齢者の介護分野への参入を強力に推進

事業内容

- 全国の中高年齢者を対象とするWEBアンケート調査
- 中高年齢者を活用する法人および介護分野で働く中高年齢者を対象としたヒヤリング調査・職域開拓、教育体制、募集方法、処遇、長く働き続けてもらうためのコツ
- 啓発ツールの開発と関係機関等への配布・周知・啓発・働き方診断シート、介護分野の仕事(ボランティアを含む)を紹介するリーフレット作成
- 成果報告・啓発セミナーの開催、事業報告書の作成

事業の効果

- 老人保健福祉サービスの一層の充実や介護保険制度の適正な運営の効果
- 研究を通じて得られる全国の中高年齢層における介護分野への参入意向や課題に関するアンケートデータについて、政策検討資料として活用
- 全国各地の事業所が、啓発ツールと口コミ、自治体との連携による取り組みを組み合わせる働きかけを行い、中高年齢層の参入者数の地域レベルを底上げ

事業の活用

- 啓発リーフレットを全国の自治体や社会福祉協議会、シルバー人材センター、福祉人材センター、介護事業者へ配布、研修会で成果内容の普及・啓発
- 啓発ツールは、次年度以降も当協議会や会員事業者が実施する教材として活用
- 調査結果を踏まえ、事業者団体として今後の中高齢層の介護分野での活用のあり方と自治体や国に求められる参入・就業継続支援策に関する政策提言を行う

WEBアンケート調査の実施概要

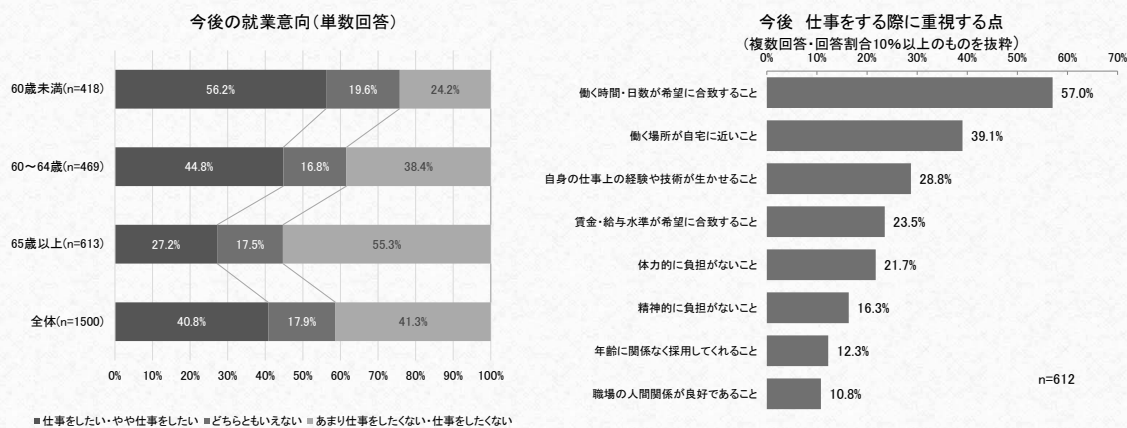
項目	内容
調査対象	過去に介護事業所で仕事をすることがなく、かつ介護事業所で定期的にボランティア活動に従事したことがない、全国の55歳から70歳までの方
調査件数	1,500件
実施時期	2016年11月22日～11月25日
調査手法	WEBアンケート調査会社(楽天リサーチ)のモニターを対象としたWEB調査
設問項目	・回答者の属性 ・今後の就業意向について ・今後のボランティア活動への参画意向について ・普段の生活における介護との接点 ・介護業界に対するイメージおよび就業・活動意向 など

※アンケート結果の詳細は、本年4月以降の民協ホームページで公開する「事業実施報告書」をご参照ください。

WEBアンケート対象者の分布

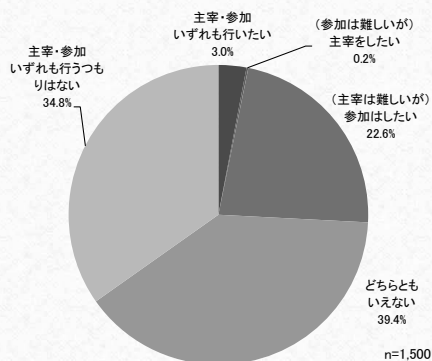
	男性	女性	計
60歳未満	207人	211人	418人
60～64歳	231人	238人	469人
65歳以上	295人	318人	613人
計	733人	767人	1,500人

今後の就業意向

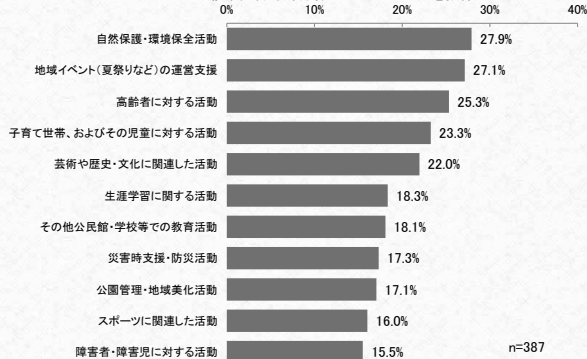


今後のボランティア活動意向

今後のボランティア活動意向(単数回答)



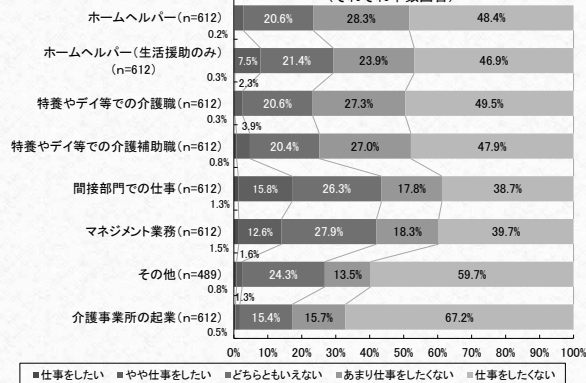
今後参画したいボランティア活動分野
(複数回答・回答割合15%以上のものを抜粋)



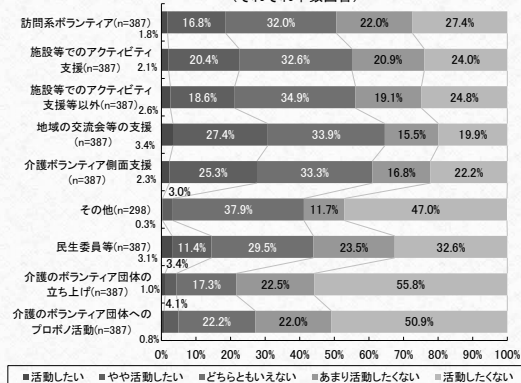
介護業界での就業・ボランティア意向

(今後の仕事やボランティアについて「仕事(活動)をしたい」「やや仕事(活動)をしたい」と回答した方のみ対象)

介護の仕事への就業意向
(それぞれ単数回答)

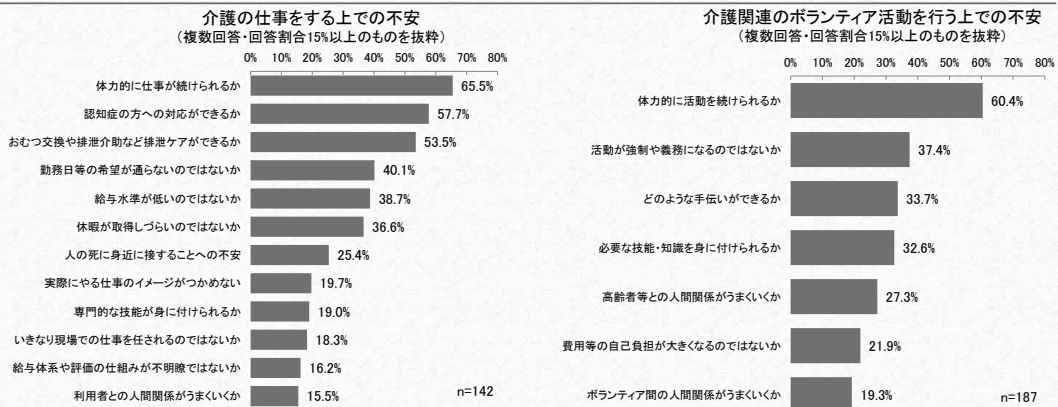


介護関連のボランティアへの参画意向
(それぞれ単数回答)



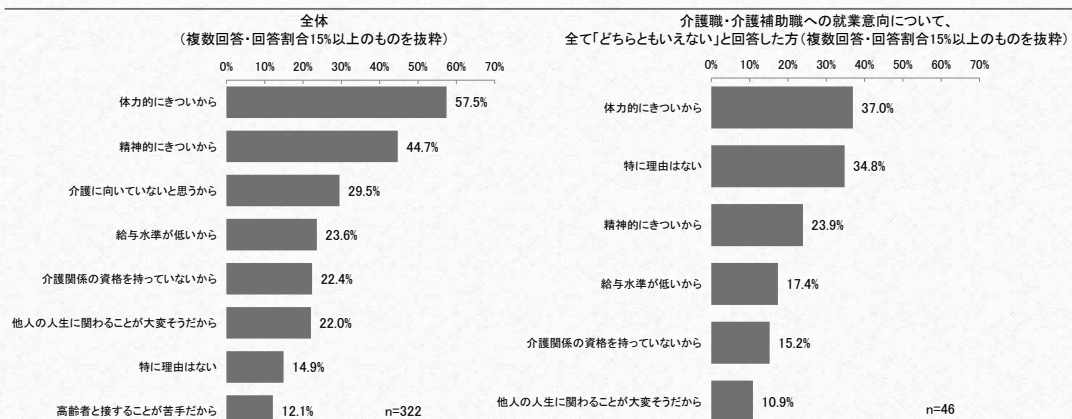
介護業界での就業・ボランティアに対する不安

(介護の仕事への就業意向・介護関連のボランティアへの参画意向について
「仕事(活動)をしたい」「やや仕事(活動)をしたい」と回答した方のみ対象)



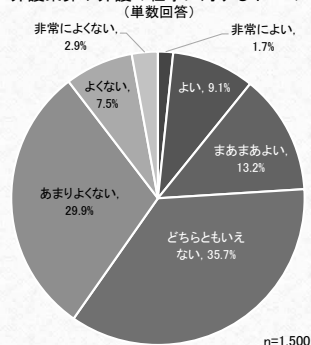
介護の仕事に就くことを躊躇する理由

(介護の仕事への就業意向について、
「どちらともいえない」「あまりしたくない」「したくない」と回答した方のみ対象)

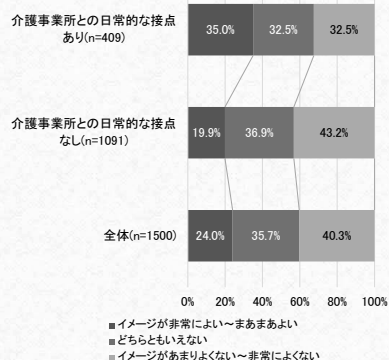


介護業界や介護の仕事に対するイメージ

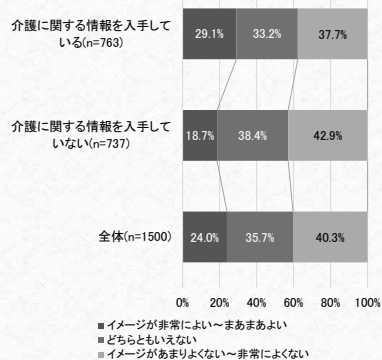
介護業界や介護の仕事に対するイメージ
(単数回答)



介護事業所との日常的な接点の有無と
介護に対するイメージ

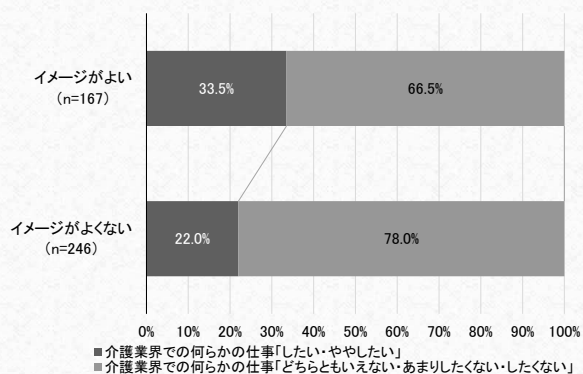


介護に関する情報入手の有無と
介護に対するイメージ

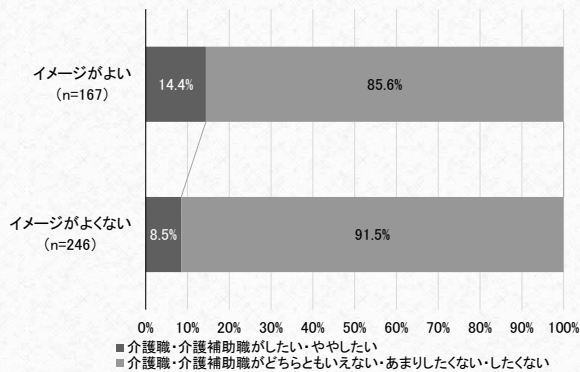


介護に対するイメージと介護業界での就業意向

介護に対するイメージと介護業界での就業意向(介護の仕事全般)



介護に対するイメージと介護業界での就業意向(介護職・介護補助職)



アンケート結果の要約

- ・ アンケート回答者の約4割が今後も仕事をしたいと回答し、また、約3割がボランティア活動に参画したいと回答。
- ・ 上記の仕事をしたい方・ボランティア活動をしたい方について、介護の仕事やボランティアへの就業・参画意向を見ると、特に介護職・介護補助職への就業意向は低くなっている(例:ホームヘルパーとして「仕事をしたい」「やや仕事をしたい」と回答した方の割合は2.8%、特養等の介護職の場合は2.6%)。
- ・ 介護の仕事に就くことを躊躇する理由としては、体力面・精神面のきつさを挙げる回答が多い。また、「介護に向いていない」「給与水準が低い」「資格を持っていない」といったものも挙げられている。
- ・ 他方、介護業界や介護の仕事について肯定的なイメージを持っている方が約2割にとどまっている状況がある。ただし、こうした業界へのイメージは、日常的な介護事業所との接点、あるいは介護に関する情報入手の状況により、改善する傾向が見られる。
- ・ 介護業界や介護の仕事に肯定的なイメージを持つ群とそうでない群を分け、介護の仕事への就業意向を比較すると、肯定的なイメージを持つ群のほうが介護の仕事をしたと考える方の割合が高くなっている。
- ・ (1つの仮説として)介護の仕事をより正確に知ってもらうことができれば、シニア層の業界に対するイメージが変わり、就業意向が高まる可能性がある。

⇒シニア層・中高年齢層に「介護の仕事を知ってもらい、身近に感じてもらう」ためのツールの必要性

介護の仕事を身近に感じてもらうためのツール

(介護分野の仕事紹介リーフレット(仮称)インタビュー記事 イメージ)



※内容やデザインイメージは、今後委員会での議論を経て変更・修正が行われる可能性があります。

介護の仕事を身近に感じてもらうためのツール

(働き方診断シート(仮称)・yes/noチャート案)



※内容は、今後委員会での議論を経て変更・修正が行われる可能性があります。

ご静聴ありがとうございました

本事業の成果冊子は、後日、皆様方へお送りさせていただきます。

厚生労働省「平成 28 年度 老人保健健康増進等事業」成果報告

中高年齢者の介護分野への参入に向けた阻害要因等の
実態把握ならびに実態に即した啓発ツールの開発
に関する調査研究
事業実施報告書

一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会